

\* وَالْمُحْصَنَاتُ مِنَ النِّسَاءِ إِلَّا مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُكُمْ  
 كَتَبَ اللَّهُ عَلَيْكُمْ وَعَلَىٰ لَكُمْ مَا وَرَاءَ ذَلِكَ إِنْ تَبْتَغُوا  
 بِأَمْوَالِكُمْ مُحْصِنِينَ غَيْرَ مُسْلِفِينَ فَمَا اسْتَمْتَعْتُمْ بِهِ  
 مِنْهُنَّ فَآتُوهُنَّ أَجُورَهُنَّ فَرِيضَةً وَلَا جُنَاحَ عَلَيْكُمْ فِيمَا  
 تَرَاضَيْتُمْ بِهِ مِنْ بَعْدِ الْفَرِيضَةِ إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلِيمًا  
 حَكِيمًا ﴿٤٤﴾ وَمَنْ لَمْ يَسْتَطِعْ مِنْكُمْ طَوْلًا أَنْ يَنْكَحَ  
 الْمُحْصَنَاتِ الْمُؤْمِنَاتِ فَمِنْ مَّا مَلَكَتْ أَيْمَانُكُمْ مِنْ  
 فِتْيَتِكُمُ الْمُؤْمِنَاتِ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِأَيْمَانِكُمْ بَعْضُكُمْ  
 مِنْ بَعْضٍ فَأَنْكِحُوهُنَّ بِإِذْنِ أَهْلِهِنَّ وَآتُوهُنَّ أَجُورَهُنَّ  
 بِالْمَعْرُوفِ مُحْصَنَاتٍ غَيْرَ مُسْلِفَاتٍ وَلَا مُتَّخِذَاتِ  
 أَخْدَانٍ فَإِذَا أُحْصِنَ فَإِنَّهُنَّ يَفْحِشْنَ فَعَلَيْهِنَّ نِصْفُ  
 مَا عَلَى الْمُحْصَنَاتِ مِنَ الْعَدَابِ ذَلِكَ لِمَنْ خَشِيَ الْعَنَتَ  
 مِنْكُمْ وَأَنْ تَصْبِرُوا خَيْرٌ لَكُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ  
 ﴿٤٥﴾ يُرِيدُ اللَّهُ لِيُبَيِّنَ لَكُمْ وَيَهْدِيَكُمْ سُنَنَ الَّذِينَ  
 مِنْ قَبْلِكُمْ وَيَتُوبَ عَلَيْكُمْ وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿٤٦﴾

24) また、アッラーはあなたがたに、夫のある女性たちとの結婚も禁じられた。ただし、アッラーの道においてあなたがたが戦い、奴隷として所有した者たちはその限りではない。それらの者たちは、一度の月経により妊娠していないことが判明した後、性交渉することが許される。アッラーは妊娠していないかどうかの確認を、あなたがたに義務づけた。アッラーは、これら以外の女性たちをあなたがたにとって合法としたが、それはあなたがたが姦淫に走ることもなく、合法的なもので自分自身を守り、彼女たちのことも慎み深くさせるため。だから彼女たちとの結婚を享受したら、彼女たちにはアッラーからの義務として、婚資金を渡せ。義務の婚資金の額が決定された後、あなたがたの合意のもとにその増額や一部譲歩がなされても、お咎めはない。アッラーは被造物のをご存知であり、その采配と法において英知あふれたお方。

25) 男性たちよ、財産の不足ゆえに自由民女性と結婚出来ない者は、奴隷女性と結婚することも許されている。ただしそれは、彼女らが信者である場合に限るが。アッラーはあなたがたの信仰の実情をご存知である。あなたがたも彼女らも宗教と人間性において同等なのだから、彼女らとの結婚を蔑んではならない。彼女らの所有者の許可を得て彼女らと結婚し、婚資金を減額することも延滞することもなく、彼女らに与えよ。これは彼女らが公けにも内密にも姦淫を犯すことがない、慎み深い女性であった場合である。彼女らが結婚後に姦淫を犯したら、自由民女性の半分の刑罰で彼女らを罰せよ。それは、50回の鞭打ち刑である。上述の、慎ましい奴隷女性の信者との結婚は、姦淫の罪に陥ってしまうことを恐れてはいるが、自由民女性とは結婚する能力のない者にとっての許可である。奴隷女性との結婚は、子供もまた奴隷となってしまうことを避けるためにも、慎んでおくことが優先される。アッラーは悔悟する僕に対して赦し深く、慈悲深いお方。

26) アッラーはこれらの規定によって、宗教の特色と、そこにおける現世と来世におけるあなたがたの福利を明らかにしたいのだ。かれは、あなたがたが物事の合法・非合法性、高潔な品性、称賛すべき人生といった事柄において従うべく、預言者たちの道へとお導きになりたい。かれはあなたがたを、かれへの反抗から服従へと戻すことをお望みなのだ。アッラーは僕たちの福利をご存知で、かれらにそれを教えて下さる。かれはその法と采配において、英知あふれたお方である。

**本諸節の功德:**

- 夫のいる女性たちとの結婚は非合法。自由民女性・奴隷女性を問わず、定めの間(イッダ)が終了しない限り、結婚は出来ない。
- 婚資金は、床入り後に義務となる。女性が自発的に、その一部を譲歩することも可能。
- 自由民女性と結婚する能力がなく、姦淫の罪に陥ることを恐れる者には、奴隷女性信者との結婚が許される。
- 導きと迷いを明確にし、アッラーの御許へと続く導きの道へと人々を招くことは、イスラーム法の目的の一つである。

وَاللَّهُ يُرِيدُ أَنْ يَتُوبَ عَلَيْكُمْ وَيُرِيدُ الَّذِينَ يَتَّبِعُونَ  
الشَّهَوَاتِ أَنْ تَمِيلُوا مَيْلًا عَظِيمًا ﴿٢٧﴾ يُرِيدُ اللَّهُ أَنْ يُخَفِّفَ  
عَنْكُمْ وَخُلِقَ الْإِنْسَانُ ضَعِيفًا ﴿٢٨﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا  
لَا تَأْكُلُوا أَمْوَالَكُمْ بَيْنَكُمْ بِالْبَاطِلِ إِلَّا أَنْ تَكُونَ  
تِجَارَةً عَنْ تَرَاضٍ مِّنْكُمْ وَلَا تَقْتُلُوا أَنْفُسَكُمْ إِنَّ  
اللَّهَ كَانَ بِكُمْ رَحِيمًا ﴿٢٩﴾ وَمَنْ يَفْعَلْ ذَلِكَ عَدْوًّا  
وَطُلْمًا فَسَوْفَ نُصَلِّيهِ نَارًا وَكَانَ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ  
يَسِيرًا ﴿٣٠﴾ إِنْ جَحْتَبُوا كِبَايِرَ مَا تُهْتَبُونَ عَنْهُ نُكَفِّرْ  
عَنْكُمْ سَيِّئَاتِكُمْ وَنُدْخِلَكُمْ مُدْخَلَ كَرِيمًا ﴿٣١﴾  
وَلَا تَتَمَنَّوْا مَا فَضَّلَ اللَّهُ بِهِ بَعْضَكُمْ عَلَى بَعْضٍ لِلرِّجَالِ  
نَصِيبٌ مِّمَّا كَسَبُوا وَلِلنِّسَاءِ نَصِيبٌ مِّمَّا كَسَبْنَ  
وَسَأَلُوهُنَّ مِنْ فَضْلِهِ إِنْ آتَى اللَّهُ كَنْزًا  
عَلِيمًا ﴿٣٢﴾ وَلِكُلِّ جَعَلْنَا مَوَالِي مِمَّا تَرَكَ الْوَالِدَانِ  
وَالْأَقْرَبُونَ وَالَّذِينَ عَقَدَتْ أَيْمَانُكُمْ فَنفِّتُوهُمْ  
نَصِيبُهُمْ إِنْ آتَى اللَّهُ كَنْزًا عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدًا ﴿٣٣﴾

27 アッラーはあなたがたの悔悟を受け入れ、あなたがたの罪を免じたいのだ。またかれは、自分の享楽を迫及している者たちが、まっすぐな道から遙か遠くに遠ざけられるのを望みなのだ。

28 アッラーは、あなたがたに対する規定の軽減と、あなたがたが耐え切れないようなことは課さないことを、お望みである。かれは人間の、身体的・性格的な弱さをご存知なのだ。

29 アッラーを信仰し、その使徒に従う者たちよ。横領・窃盗・賄賂といった不正によって、お互いの財産を取り合ってはならない。ただし、契約者同士が合意のもとに行う、商行為は別である。それは所有し、好きなように使ってよい。また、互いに殺し合ったり、自殺したり、自らを破滅へと陥れたりしてはならない。アッラーはあなたがたに対して慈悲深いお方であり、あなたがたの生命・財産・尊厳を不可侵のものとしたのだ。

30 他人の財産の侵害や殺害などの禁止事項を、無知や忘却からではなく、知りつつ故意に行う者。アッラーは審判の日、そのような者を地獄の中にお入れになる。その者は熱さにあえぎ、罰に苦しむことになるが、それは不可能なことなどない全能のアッラーにとって容易なこと。

31 信者たちよ、もしあなたがたが、アッラーに対するシルク(多神)・親不孝・殺人・利子を取るなどといった大罪から遠ざかるのであれば、われらはあなたがたの小さな罪を大目に見てやろう。そしてアッラーの御許での貴い居場所である天国に入れよう。

32 信者たちよ、アッラーはあなたがたのある者たちに別の者にはない特性を授けたが、そのようなものを欲しがるのではない。それは憎しみや妬みへと陥らないようにするため。だから女性は、アッラーが男性に特別にお授けになったものを欲しがらるべきではない。アッラーはいず

れにも、適切な仕事の取り分をお与えになったのだから。アッラーに、かれからの更なるお恵みを乞え。アッラーは全てをご存知であり、あらゆる種類の者に適当な仕事を与えて下さったのだ。

33 われらは、あなたがたのいずれにも、両親や近親が遺した遺産を相続する集団をもうけた。同盟や援助による確約を結んだ者たちには、遺産から取り分を与えてやれ。アッラーは全てのことに対する証人であり、あなたがたの確約や契約に対しても証言される。なお、この句にある同盟者への相続はイスラーム初期にあったものだが、後に解消された。

#### 本諸節の功德:

- 僕たちへのアッラーの慈悲の大きさ。かれは、僕たちの悔悟と、かれらの軽減をお望みになる。他方、欲望を追求する者たちに関しては、導きから迷い去ることをお望みになる。
- イスラーム法は、人間の諸権利を保護する。生命・財産・尊厳の侵害を禁じ、それらに対して最大の刑罰を定めた。
- 大罪を遠ざけることは小さな罪を赦され、天国に入ることの原因となる。
- アッラーから授かった分け前に満足し、他人の所有物を欲しがらないことは、嫉妬心や、アッラーの定命に対する不満から遠ざけてくれる。

الرِّجَالُ قَوَّامُونَ عَلَى النِّسَاءِ بِمَا فَضَّلَ اللَّهُ بَعْضَهُمْ عَلَى بَعْضٍ وَبِمَا أَنْفَقُوا مِنْ أَمْوَالِهِمْ فَإِذَا الصَّالِحَاتُ قَنَنَتْ حَفِظَتْ لِلْغَيْبِ بِمَا حَفِظَ اللَّهُ وَالَّتِي تَخَافُونَ نُشُوزَهُنَّ فَعِظُوهُنَّ وَأَهْجُرُوهُنَّ فِي الْمَضَاجِعِ وَأَضْرِبُوهُنَّ فَإِنْ أَطَعْنَكُمْ فَلَا تَبْغُوا عَلَيْهِنَّ سَبِيلًا ۗ إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلِيمًا كَبِيرًا ﴿٣٤﴾ وَإِنْ خِفْتُمْ شِقَاقَ بَيْنِهِمَا فَأَبْغُوا حَكْمًا مِنْ أَهْلِهِ وَحَكْمًا مِنْ أَهْلِهَا إِنْ يُرِيدُوا إِصْلَاحًا يُوَفِّقِ اللَّهُ بَيْنَهُمَا إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلِيمًا خَبِيرًا ﴿٣٥﴾ \* وَأَعْبُدُوا اللَّهَ وَلَا تُشْرِكُوا بِهِ شَيْئًا وَبِالْوَالِدَيْنِ إِحْسَانًا وَبِذِي الْقُرْبَىٰ وَالْيَتَامَىٰ وَالْمَسْكِينِ وَالْجَارِ ذِي الْقُرْبَىٰ وَالْجَارِ الْجُنُبِ وَالصَّاحِبِ بِالْجَنبِ وَابْنِ السَّبِيلِ وَمَا مَلَكَتْ أَيْمَانُكُمْ إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ مَنْ كَانَ مُخْتَالًا فَخُورًا ﴿٣٦﴾ الَّذِينَ يَبْخَلُونَ وَيَأْمُرُونَ النَّاسَ بِالْبُخْلِ وَيَكْتُمُونَ مَاءَ أَنفُسِهِمْ اللَّهُ مِنْ فَضْلِهِ وَأَعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ عَذَابًا مُهِمًا ﴿٣٧﴾

34) 男性は女性を世話し、その諸事を取り計らう。それは、アッラーがかれらにお授けになった、彼女らに対する特性のためであり、また、彼女らに対するかれらの扶養と世話の義務のためである。正しい女性とは、主と夫に従順で、アッラーのお導きにより、夫の留守を預かる者である。夫たちよ、その言動において夫への反抗の恐れがある妻に関しては、まずは戒め、アッラーを恐れさせるがよい。それでも彼女らが聞かなければ寢床を別にし、彼女らとの性交を避けるがよい。それでも彼女らが聞かなければ、その時には痛くないような叩き方で叩くがよい。それでもし彼女らが従順になったら、不正や叱責によって彼女らを侵害してはならない。アッラーは何よりも高くおられ、その本質と属性において偉大なお方。かれを恐れるのだ。

35) 夫婦の後見人たちよ、もし両者の不一致が敵対や決別に至ることを恐れるのであれば、夫の親族と妻の親族から各一名の公正な男性を送らせ、離別なり仲直りなり、調停させよ。そして仲直りの方がより好まれ、優先される。もし二人の調停者がそれを望み、そこへと至る理想的な方法を取るのなら、アッラーは夫婦の間から不一致を取り除き、その関係を成功にあふれたものとして下さろう。アッラーは僕たちを全てお見通しであり、かれらの心に秘められた仔細をご存知になるお方。

36) アッラーだけを崇拜し、かれに従え。かれと並べて何も崇めてはならない。両親は重んじ、孝行せよ。また、親戚、孤児、困窮者、親戚の隣人、そうではない隣人、あなた方の同伴者、旅を継続できない異国の旅人、あなた方の奴隷に対して、よくしてやれ。アッラーは、偉ぶって自分自身を讃美するような自惚れ屋のことを愛されない。

37) アッラーは、授かった糧から費やすべき義務も払わず、他人にも同様のことを命じる者たちのことを、愛されない。かれらは、アッラーから授かった糧や知識などのよいものを隠している。かれらは人々に真理を説明することもなく隠蔽(いんべい)し、虚妄を掲げるが、これは不信仰の性質である。われらは不信仰者たちに、屈辱の罰を準備した。

#### 本諸節の功德:

- 男性が女性を世話することの、確かな根拠。アッラーは男性を管理能力によって上位にし、妻の扶養義務などの諸義務を課した。
- 妻の行状を正す際の、行き過ぎや不正に対する警告。そこにおいてはアッラーの御力や至高性が言及されている。
- 高慢さ、吝嗇(りんしょく)、知識の隠蔽など、悪い品性に対する警告。

وَالَّذِينَ يَنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ رِئَاءَ النَّاسِ وَلَا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ  
وَلَا بِالْيَوْمِ الْآخِرِ وَمَنْ يَكُنِ الشَّيْطَانُ لَهُ وَ قَرِينًا فَسَاءَ  
قَرِينًا ﴿٣٨﴾ وَمَاذَا عَلَيْهِمْ لَوْ آمَنُوا بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ وَأَنْفَقُوا  
مِمَّا رَزَقَهُمُ اللَّهُ وَكَانَ اللَّهُ بِهِمْ عَلِيمًا ﴿٣٩﴾ إِنْ اللَّهُ لَا يَظْلِمُ  
مِثْقَالَ ذَرَّةٍ وَإِنْ تَكَ حَسَنَةً يَضْعِفْهَا وَيُؤْتِ مِنْ لَدُنْهُ  
أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٤٠﴾ فَكَيْفَ إِذَا جِئْنَا مِنْ كُلِّ أُمَّةٍ بِشَهِيدٍ  
وَجِئْنَا بِكَ عَلَى هَؤُلَاءِ شَهِيدًا ﴿٤١﴾ يَوْمَ مِذْيُودِ الَّذِينَ  
كَفَرُوا وَعَصُوا الرَّسُولَ لَوْ سَوَّيْ بِهِمُ الْأَرْضَ وَلَا يَكْتُمُونَ  
اللَّهَ حَدِيثًا ﴿٤٢﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَقْرُبُوا الصَّلَاةَ وَأَنْتُمْ  
سُكَرَىٰ حَتَّىٰ تَعْلَمُوا مَا تَقُولُونَ وَلَا جُنْبًا إِلَّا عَابِرِي  
سَبِيلٍ حَتَّىٰ تَغْتَسِلُوا وَإِنْ كُنْتُمْ مَرْضَىٰ أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ أَوْ جَاءَ  
أَحَدٌ مِنْكُمْ مِنَ الْغَايِبِ أَوْ لَمَسْتُمُ النِّسَاءَ فَلَمْ تَجِدُوا مَاءً  
فَتَيَمَّمُوا صَعِيدًا طَيِّبًا فَامْسَحُوا بِوُجُوهِكُمْ وَأَيْدِيكُمْ  
إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَفُورًا غَفُورًا ﴿٤٣﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ أُوْتُوا نَصِيبًا مِنَ  
الْكِتَابِ يَشْتَرُونَ الضَّلَالَةَ وَيُرِيدُونَ أَنْ تَضِلُّوا السَّبِيلَ ﴿٤٤﴾

③⑧ 人目を気にし、称賛されるために財産を費やす者たちに、われらは罰を準備しておいた。かれらはアッラーのことも審判の日も信仰していない。われらはかれらに屈辱的な罰を準備したが、かれらが迷わせられたのは、シャイターンへの服従が原因である。シャイターンは、何と悪い連れ合いであろうか。

③⑨ もしかれらがアッラーと審判の日を信仰し、アッラーに与えられた財産の一部をかれが好み、悦ぶことに費やしても、一体何の害になろうか？むしろ、それは全てよいことだ。アッラーはかれらのことをご存知であり、その状態を全てお見通しである。かれは全ての者を、その行いによって報われる。

④① アッラーは公正なお方であり、僕たちに不正を働くことがない。かれらの善行は小蟻ほどの重さでも減らしたりせず、悪行に上乘せすることもない。そしてわずかでも善行があれば、その報奨はアッラーのご好意により倍増され、かれの御許からの偉大な報奨として与えられる。

④② われらが全ての共同体の預言者を連れて来て、かれらが何を行ったか証言させる時、そして使徒よ、あなたをあなたの共同体の証人として連れて来る時、審判の日の様子はいかなるものとなるか？

④③ その偉大な日、アッラーを否定し、使徒に反抗した者たちは土になってしまうことを望む。しかしかれらは、自分たちの行いをアッラーに隠せない。アッラーはかれらの舌を封じた後、かれらの身体に対し、かれらがやったことを証言させるからである。

④④ アッラーを信仰し、その使徒に従う者たちよ。あなたがたが酩酊状態にある時は、酔いから醒め、自分の言葉を判別できるようになるまで、礼拝をするな(これは飲酒が完全に禁止される前のこと)。また、大汚の状態にある時には、全身洗浄をしない限り礼拝してはならず、 Masjid

に入ってもいけない。ただし、そこに留まらず、通過するだけなら別だが。もし水が使用できない病気だったり、旅行中だったり、小汚の状態にあったり、妻と交わったりして水を見つけられない時には、清浄な砂に触れ、それで顔と両腕を撫でよ。アッラーはあなたがたの至らなさを大目に見る、赦し深いお方。

④④ 使徒よ、あなたは、アッラーから律法書に関する知識を授かっているが、導きを迷いと取り替えるユダヤ教徒のことを知らないのか？信者たちよ、かれらはあなたがたを、使徒のまっすぐな道から迷わせ、歪んだ道を歩ませようと懸命なのだ。

#### 本節の功德:

- アッラーが少しも僕たちに不正を働かないこと、かれらの善行の報奨が倍増することは、かれの完全なる公正さとお慈悲の現れである。
- 審判の日の激しい恐怖と、そこで不信仰者を待ち受ける物事の重大さ。不信仰者はその日、土になることを望む。
- 大汚は、礼拝および Masjid での滞留を妨げる。Masjid に留まらず通過するのは、問題ない。
- 水がなかったり、水の使用が不可能な時に タヤムム が合法となることは、アッラーからの便宜である。

45 信者たちよ、アッラーはあなたがた自身よりも、あなたがたの敵についてよくご存知である。あなたがたにかれらの敵意をお教えになったのは、そのためだ。アッラーという守護者だけで、あなたがたをかれらの武力から守ってくれるのは十分。アッラーという援助者だけで、あなたがたをかれらの策謀や害悪から阻んでくれるのは、十分である。

46 ユダヤ教徒の中には、アッラーが啓示した言葉を変え、啓示されたものと違う形に解釈する悪い民がいる。かれらは使徒が命令すれば、こう言う。「あなたの言葉は聞いたが、命令には逆らう。」また嘲笑しつつ、言う。「わたしたちの言うことを聞け。あなたは聞かないだろうが。」また、「あなたの耳を貸せ」という意味を持たせつつ、「ライナー」と言うが、実のところはそれで「愚かさ(ルーナ)」を意図している。かれらは舌を捻じ曲げて、使徒への悪い祈願と、宗教の中傷を望んでいる。「あなたの言うことを聞き、命令に従いました」「聞いて下さい」と言い、「ライナー」と言う代わりに「待って下さい。あなたの言うことを理解しますから」と言う方が、かれらにとって適切だったのだ。その方が、預言者に対する作法にふさわしい。しかしアッラーはその不信仰が原因で、かれらをお慈悲から遠ざけた。それでかれらが信仰に入ることはない。

47 ユダヤ教徒とキリスト教徒よ、あなたがたに啓示された律法書と福音書を確認すべく、ムハンマドに啓示されたものを信じよ。あなたがたの顔の感覚器官が抹消され、それを顔の後ろ側にされるか、または安息日の人々がそうされたように、アッラーのお慈悲から遠ざけられてしまう前に。かれらは安息日に漁猟が禁止された後、それを破って猿に変えられてしまったのだ。アッラーのご命令と定めは、必ずや実現する。

48 アッラーは、ご自身に被造物が並べられることを、お赦しにならない。しかしシルク(多神)と不信仰以外の罪であれば、お望みの者にはお赦しになるかもしれないし、またはその罪の程度だけ罰されるかもしれない。アッラーに対して他のものを並べる者は、この上ない罪を犯したのであり、その状態で死ぬれば決して赦されることはない。

49 使徒よ、自分自身とその行いを自画自賛する者たちのことを、あなたは知らないのか? いや、アッラーのみがお望みになる僕を称えるのだ。アッラーこそは、心の内をご存知になるお方。かれらは、たとえナツメヤシの種に付着している糸くずほどのものであったとしても、行いの報奨を減らされない。

50 使徒よ、見るがよい。かれらがアッラーに対していかに嘘をつき、自画自賛しているかを。かれらの迷妄だけで、罪としては十分である。

51 使徒よ、アッラーから知識を授けられたユダヤ教徒の状態を、あなたは知って驚かないのか? かれらはアッラー以外のものを崇拜対象として信じ、多神教徒たちに媚びへつらって、こう言う。「かれら(多神教徒)はムハンマドの仲間たちより、正しく導かれている。」

#### 本諸節の功德:

- アッラーとそのご援助だけで、信者たちにとっては十分であり、他には何も必要ない。
- アッラーの御言葉の改ざん、その使徒に対する非礼、アッラーの法以外のものによる裁決など、ユダヤ教徒の罪悪に関する説明。
- シルク(多神)と不信仰の危険性。それを犯した状態で死んでしまえば、赦されることはない。それ以外のことであれば、アッラーの御心に委ねられる。

وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِأَعْدَائِكُمْ وَكَفَى بِاللَّهِ نَصِيرًا ﴿٤٥﴾  
 مِنَ الَّذِينَ هَادُوا وَيَحْرِفُونَ إِلَهُكُمُ عَنْ مَوَاضِعِهِ وَيَقُولُونَ  
 سَمِعْنَا وَعَصَيْنَا وَأَسْمَعُ غَيْرَ مَسْمُوعٍ وَرَاعِنَا لِيَا بِالسِّتْرِهِمْ  
 وَطَعْنَانِي الَّذِينَ وَلُوا أَنَّهُمْ قَالُوا سَمِعْنَا وَأَطَعْنَا وَأَسْمَعُ وَأَنْظُرْنَا  
 لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ وَأَقْوَمَ وَلَٰكِن لَعَنَهُمُ اللَّهُ بِكُفْرِهِمْ فَلَا يُؤْمِنُونَ  
 إِلَّا قَلِيلًا ﴿٤٦﴾ يَتَّبِعُهَا الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ ءَامِنُوا بِمَا نَزَّلْنَا  
 مُصَدِّقًا لِّمَا مَعَكُمْ مِنْ قَبْلِ أَنْ نَطْمَسَ وُجُوهًا فَتَرُدَّهَا  
 عَلَىٰ أَدْبَارِهَا أَوْ نَلْعَنَهُمْ كَمَا لَعْنَا أَصْحَابَ السَّبْتِ وَكَانَ أَمْرُ  
 اللَّهِ مَفْعُولًا ﴿٤٧﴾ إِنَّ اللَّهَ لَا يَغْفِرُ أَنْ يُشْرَكَ بِهِ وَيَغْفِرُ مَا دُونَ  
 ذَلِكَ لِمَنْ يَشَاءُ وَمَنْ يُشْرِكْ بِاللَّهِ فَقَدِ افْتَرَىٰ إِثْمًا عَظِيمًا  
 ﴿٤٨﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ يُزَكُّونَ أَنفُسَهُمْ بَلِ اللَّهُ يُزَكِّي مَن يَشَاءُ  
 وَلَا يَظُنُّونَ فِتْنِيًّا ﴿٤٩﴾ أَنْظُرْ كَيْفَ يَقْتُرُونَ عَلَى اللَّهِ الْكَذِبَ  
 وَكَفَىٰ بِهِ إِثْمًا مُّبِينًا ﴿٥٠﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ أُوتُوا نَصِيبًا  
 مِنَ الْكِتَابِ يُؤْمِنُونَ بِالْحِبْتِ وَالطَّلُوتِ وَيَقُولُونَ  
 لِلَّذِينَ كَفَرُوا هَؤُلَاءِ أَهْدَىٰ مِنَ الَّذِينَ ءَامَنُوا سَبِيلًا ﴿٥١﴾

أُولَئِكَ الَّذِينَ لَعَنَهُمُ اللَّهُ وَمَنْ يَلْعَنِ اللَّهُ فَلَنْ نَجِدَ لَهُ نَصِيرًا ﴿٥٦﴾  
 أَمْ لَهُمْ نَصِيبٌ مِنَ الْمَلِكِ فَإِذَا لَا يَأْتُونَ النَّاسَ نَقِيرًا ﴿٥٧﴾ أَمْ  
 يَحْسُدُونَ النَّاسَ عَلَى مَا آتَاهُمُ اللَّهُ مِنْ فَضْلِهِ فَقَدْ آتَيْنَا  
 آلَ إِبْرَاهِيمَ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَآتَيْنَاهُمْ مُلْكًا عَظِيمًا ﴿٥٨﴾  
 فَمِنْهُمْ مَنْ ءَامَنَ بِهِ وَمِنْهُمْ مَنْ صَدَعَهُ وَكَفَىٰ بِجَهَنَّمَ سَعِيرًا ﴿٥٩﴾  
 إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِنَا سَوْفَ نُصَلِّيهِمْ نَارًا كَمَا نُصَلِّجَت  
 جُلُودُهُمْ بِدَلَّتْهُمْ جُلُودًا أُخْرَىٰ لِيَذُوقُوا الْعَذَابَ إِنَّ اللَّهَ كَانَ  
 عَزِيزًا حَكِيمًا ﴿٦٠﴾ وَالَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ سَنُدْخِلُهُمْ  
 جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا لَهُمْ فِيهَا  
 أَرْوَاحٌ مُطَهَّرَةٌ وَنُدْخِلُهُمْ ظِلًّا ظَلِيلًا ﴿٦١﴾ \* إِنَّ اللَّهَ يَأْمُرُكُمْ  
 أَنْ تُوَدُّوا إِلَى الْأَمْنِ إِلَىٰ أَهْلِهَا وَإِذَا حَكَمْتُمْ بَيْنَ النَّاسِ أَنْ  
 تَحْكُمُوا بِالْعَدْلِ إِنَّ اللَّهَ نِعِمَّا يَعِظُكُمْ بِهِ إِنَّ اللَّهَ كَانَ سَمِيعًا  
 بَصِيرًا ﴿٦٢﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَطِيعُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا الرَّسُولَ وَأُولِي  
 الْأَمْرِ مِنْكُمْ فَإِن تَنَازَعْتُمْ فِي شَيْءٍ فَرُدُّوهُ إِلَى اللَّهِ وَالرَّسُولِ إِن كُنتُمْ  
 تُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ ذَلِكَ خَيْرٌ وَأَحْسَنُ تَأْوِيلًا ﴿٦٣﴾

الجزء  
الخامس

⑤② このような悪い考えの者たちこそは、アッラーのお慈悲から遠ざけられてしまった者たち。アッラーのお慈悲から遠ざけられた者には、いかなる援助者もない。

⑤③ かれらに王権の取り分などはない。もしあったとしても、ナツメヤシの種の上に付いている一点ほどの大きさのものも、与えようとはしなかっただろう。

⑤④ かれらはムハンマドとその教友たちを、アッラーから授かった預言者の使命、信仰、地上での権勢ゆえに妬んでいる。だが、なぜかれらを妬むのか？かれらに啓示したのは一冊の啓典に過ぎないが、かつてわれらはイブラーヒームの子孫に啓典や偉大な王権を授けているのだ。

⑤⑤ 啓典の民の中には、イブラーヒームとその子孫である預言者たちにアッラーが下したものを信じた者たちもいるし、背を向けた者たちもいる。預言者ムハンマドに下されたものに関して、かれらの立場は同様である。かれら不信仰者には、地獄がその報いの罰となろう。

⑤⑥ われらの印を否定する者たちは審判の日、取り囲む地獄に入れてやろう。それがかれらの皮膚を焼き焦がしても、われらは罰が続くように、別の皮膚に替えてやる。アッラーは偉大なお方、その采配と定めにおいて英知あるお方。

⑤⑦ アッラーを信仰し、その使徒たちに従う者たちは審判の日、われらが天国に入れてやる。その城郭の下からは河川が流れており、かれらは永遠にそこに留まる。かれらにはそこで、あらゆる穢れから清浄な妻たちがいる。かれらは暑さもなければ寒さもない、長く伸びる濃密な影の中に入るのだ。

⑤⑧ アッラーは、あなたがたが信託を受けたものをその持ち主に返すことを命じている。人々の間を裁いたならば公正にし、裁決において偏ったり不正を行ったりしてはいけない。アッラーはいつでもあなたがたをご指導される、素晴らしいお方。アッラーはあなたがたの言葉を聞き、行為をご覧になるお方。

⑤⑨ アッラーを信仰し、その使徒に従う者たちよ。アッラーのご命令と禁止事項の遵守によって、アッラーとその使徒に従え。また、罪深いことを命じるのでない限り、あなたがたの統治者に従え。見解の違いが生じたら、アッラーの書と預言者のスンナに立ち返るのだ。これは、もしあなたがたがアッラーと審判の日を信じているのなら、の話である。クルアーンとスンナに立ち返ることの方が意見の相違の増長よりもよく、あなたがたにとってよりよい結果をもたらすのだ。

#### 本諸節の功德:

- 啓典の民の不信仰における最大の原因の一つが、信者たちに対する嫉妬である。アッラーがかれらに預言者や権勢を授けたことが、嫉妬の原因となった。
- 信託の遵守、公正な裁決といった、優れた品性の命令。
- 罪深いことを命じない限り、統治者に服従することの義務。意見の違いが生じた際には、アッラーとその使徒(祝福と平安あれ)の裁決に立ち返ることの必要性。

أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ يَزْعُمُونَ أَنَّهُمْ آمَنُوا بِمَا أُنزِلَ إِلَيْكَ  
وَمَا أُنزِلَ مِنْ قَبْلِكَ يُرِيدُونَ أَنْ يَتَحَاكَمُوا إِلَى الطَّغُوتِ  
وَقَدْ أُمِرُوا أَنْ يَكْفُرُوا بِهِ ۗ وَيُرِيدُ الشَّيْطَانُ أَنْ يُضِلَّهُمْ  
ضَلَالًا بَعِيدًا ﴿٦٥﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا إِلَىٰ مَا أُنزِلَ  
اللَّهُ وَإِلَىٰ الرَّسُولِ رَأَيْتَ الْمُنَافِقِينَ يَصُدُّونَ عَنْكَ  
صُدُودًا ﴿٦٦﴾ فَكَيْفَ إِذَا أَصَابَتْهُمُ مُصِيبَةٌ بِمَا  
قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ ثُمَّ جَاءُوكَ يَخْلِفُونَ بِاللَّهِ إِنْ أَرَدْنَا إِلَّا  
إِحْسَانًا وَتَوْفِيرًا ﴿٦٧﴾ أُولَٰئِكَ الَّذِينَ يَعْلَمُ اللَّهُ مَا  
فِي قُلُوبِهِمْ فَأَعْرِضْ عَنْهُمْ وَعِظْهُمْ وَقُلْ لَهُمْ فِي  
أَنْفُسِهِمْ قَوْلًا بَلِيغًا ﴿٦٨﴾ وَمَا أَرْسَلْنَا مِنْ رَّسُولٍ إِلَّا  
لِيُطَاعَ بِإِذْنِ اللَّهِ ۗ وَلَوْ أَنَّهُمْ إِذْ ظَلَمُوا أَنْفُسَهُمْ  
جَاءُوكَ فَاسْتَغْفَرُوا اللَّهَ وَاسْتَغْفَرَ لَهُمُ الرَّسُولُ  
لَوَجَدُوا اللَّهَ تَوَّابًا رَحِيمًا ﴿٦٩﴾ فَلَا وَرَبِّكَ لَا يُؤْمِنُونَ  
حَتَّىٰ يَخْرُجُوا مِنْكُمْ فِي مَآشِجِرَ بَيْنَهُمْ ثُمَّ لَا يَجِدُوا فِي  
أَنْفُسِهِمْ حَرَجًا مِمَّا قَضَيْتَ وَيُسَلِّمُوا تَسْلِيمًا ﴿٧٠﴾

60 使徒よ、あなたはユダヤ教徒の偽信者たちの矛盾を、見なかったのか？かれらは、あなたに下されたものと、あなた以前の預言者たちに下されたものを信じた、と嘘の主張をしている。かれらは争議の中で、アッラーの法ではなく人間が定めたものによる裁決を求めているのだ。かれらはそもそも、それを否定するように命じられているのに、シャイターンは、かれらが真理からこの上なく遠ざけられることを望んでいる。

61 かれら偽信者たちに、「アッラーがその書の中で下した法と、あなたがたの争議に裁決を下す使徒のもとに、来なさい」と言われれば、使徒よ、あなたは見るだろう。かれらが、あなた以外のものに裁決を求めて背を向けるのを。

62 自分たちが犯した罪によって災難に襲われた時、偽信者たちの状況はいかなるものとなろうか？使徒よ、かれらはアッラーに誓いつつ、言い訳をしながらやって来て、こう言う。「あなた以外の者のところに裁決を求めたのは、争っている者たちへの善と、かれらの仲直りを望んだからだ。」かれらは嘘をついている。アッラーがその僕のために定めて下さった法規定の実践こそは、善なのだから。

63 アッラーは、かれらが心に潜ませている偽善と悪い意図を、ご存知である。だから使徒よ、かれらに背を向け、アッラーの法規定をかれらに説明せよ。そしてかれらの心に届いて響くような言葉を使うのだ。

64 われらが使徒を遣わすのは、アッラーのご意思と定めのもと、かれが服従されるためである。もしかれらが罪を犯した後にそれを認めて後悔し、あなた(使徒)のもとにやって来てアッラーに罪の赦しを乞い、あなたもまたかれらのために罪の赦しを乞うてやるならば、かれらはアッラーが悔悟をお受け入れになり、慈悲深いお方であることを見出すだろう。

65 事は、偽信者らが考えているような次第ではない。アッラーは誓って、こう言われる。意見の相違が生じた際には、使徒の存命中は使徒のところへ、かれの死後はその法の権威を訪れて裁決を仰がない限り、かれらが本当に信じたことにはならない、と。そしてその際、使徒の裁決に満足し、心の中には何の不満も疑念もなく、外面的にも内面的にも完全に従わなければならない、と。

#### 本諸節の功德:

- アッラー以外の法に裁決を求め、それに満足することは、アッラーへの信仰に対する矛盾である。完全な信仰とは、アッラーの法によって裁決し、それに心が満足し、内面的にも外面的にもそれに従うことである。
- 偽信者の大きな特徴の一つが、アッラーの法に対する不満、アッラーの法よりもそれ以外の法を優先させることである。
- 無知と迷いの徒には背を向けつつも、助言とアッラーからの罰についての警告を十分行うのがよい。

وَلَوْ أَنَّا كَتَبْنَا عَلَيْهِمْ أَنِ اقْتُلُوا أَنْفُسَكُمْ أَوْ اخْرَجُوا مِنْ دِيَارِكُمْ مَا فَعَلُوهُ إِلَّا قَلِيلٌ مِّنْهُمْ وَلَوْ أَنَّهُمْ فَعَلُوا مَا يُوعَظُونَ بِهِ لَكَانَ خَيْرًا لَهُمْ وَأَشَدَّ تَثْبِيثًا ﴿٦٦﴾ وَإِذْ آلَتَيْتَهُمْ مِنْ لَدُنَّا أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٦٧﴾ وَلَهَدَيْنَاهُمْ صِرَاطًا مُسْتَقِيمًا ﴿٦٨﴾ وَمَنْ يُطِيعِ اللَّهَ وَالرَّسُولَ فَأُولَئِكَ مَعَ الَّذِينَ أَنْعَمَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ مِنَ النَّبِيِّينَ وَالصِّدِّيقِينَ وَالشُّهَدَاءِ وَالصَّالِحِينَ وَحَسُنَ أُولَئِكَ رَفِيقًا ﴿٦٩﴾ ذَلِكَ الْفَضْلُ مِنَ اللَّهِ وَكَفَى بِاللَّهِ عَلِيمًا ﴿٧٠﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا خذُوا حِذْرَكُمْ فَانفِرُوا ثُبَاتٍ أَوْ بَعَادٍ مُّجْمِعِينَ ﴿٧١﴾ وَإِنْ مِنْكُمْ لَمَنْ لَيُبَطِّئَنَّ فَإِنْ أَصَابَتْكُمْ مُّصِيبَةٌ قَالْ قَدْ أَنْعَمَ اللَّهُ عَلَيْنَا إِذْ لَمْ أَكُنْ مَعَهُمْ شُهَدَاءَ ﴿٧٢﴾ وَلَئِنْ أَصَابَكُمْ فَضْلٌ مِنَ اللَّهِ لَيَقُولُنَّ كَأَن لَّمْ تَكُنْ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُ مَوَدَّةٌ يَلَيْتَنِي كُنْتُ مَعَهُمْ فَأَفُوزَ فَوْزًا عَظِيمًا ﴿٧٣﴾ \* فَايَقْتُلْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ الَّذِينَ يَشْرُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا بِالْآخِرَةِ وَمَنْ يُقْتَلْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَيُقْتَلْ أَوْ يَغْلِبْ فَسَوْفَ نُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٧٤﴾

66-68 もしわれらがかれらに、互いに戦い合ったり、故郷から出て行ったりすることを命じても、少数の者以外は命令に従わなかつたらう。だからかれらは、アッラーがかれらに困難を課さなかつたことに、かれを讃えるべきである。かれらが勧められている通りにアッラーに服従したなら、それは命令に反することよりもよく、かれらの信仰をより堅固にしたらう。また、われらはかれらに偉大な報奨を受け、アッラーと天国へと続く道にかれらを導いたらう。

69 アッラーと使徒に従う者は、天国という恩恵をアッラーから授かった者たち、つまり預言者たち、使徒たちへの完全な信仰に則って行く誠実な者たち、アッラーの道における殉教者たち。外面も内面も正しい者たちと共にあろう。天国での同伴者として、かれらは何と素晴らしいことか。

70 これらの報奨は、僕たちへのアッラーの賜物。アッラーはかれらの状態を完全に知っており、全ての者にその行いに応じて報いる。

71 アッラーを信仰し、その使徒に従う者たちよ。敵に対しては、戦いの助力となる要因を満たしつつ、警戒せよ。あなたがたの福利と、敵に加える被害を考慮しつつ、集団に分かれて、あるいは一斉に出征せよ。

72 信者たちよ、あなたがたの中には臆病さゆえ、敵への出征に後れを取ったり、あるいは他の者たちを遅らせたりする、偽信者や信仰心の弱い者がいる。あなたがたに殺害や敗北が降りかかれば、ある者は自らの無事を喜んで、こう言うのだ。「アッラーはわたしにお恵み下さった。かれらと共に戦いに参加しなかつたおかげで、かれらに降りかかった災難に巻き込まれなかつたのだから。」

73 そして信者たちよ、もしあなたがたに勝利や戦利品といった恩恵があれば、出征せずに残留した者たちは、言

うのだ。「わたしもかれらと一緒に戦いに参加していたら、かれらが得たような素晴らしいものを得たのに。」あたかもかれらはあなたがたの仲間ではなく、そこにはいかなる愛情も交友もなかつたかのようである。

74 だからアッラーの道において、かれの御言葉が最高のものとなるべく、奮闘努力せよ。誠実なる信者たちは現世よりも来世を求め、現世でもって来世を買う。アッラーの道において奮闘努力し、その結果殉教する者、あるいは敵に対して勝利を収める者は、アッラーから偉大な報奨を頂くだろう。それは天国であり、アッラーのお喜びである。

#### 本諸節の功德:

- 服従行為は、宗教において堅固であることの最も重要な原因である。
- 用心するという事は、敵との戦いへの助力となる全ての要因を満たすことによるものであり、居残ったり諦めたりすることによるものではない。
- 奮闘努力することに後れを取ったり、他の者を遅れさせたりすることへの警告。奮闘努力はムスリムの威光を高め、敵からの支配を阻止する最大の原因である。



وَمَا لَكُمْ لَا تَقْتُلُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ وَالْمُسْتَضْعَفِينَ مِنَ الرِّجَالِ  
وَالنِّسَاءِ وَالْوِلْدَانَ الَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَا أَخْرِجْنَا مِنْ هَذِهِ الْقَرْيَةِ  
الظَّالِمِ أَهْلِهَا وَاجْعَل لَنَا مِنْ لَدُنْكَ وَلِيًّا وَاجْعَل لَنَا مِنْ لَدُنْكَ نَصِيرًا  
﴿٧٥﴾ الَّذِينَ آمَنُوا يَقْتُلُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ وَالَّذِينَ كَفَرُوا يَقْتُلُونَ فِي  
سَبِيلِ الطَّغُوتِ فَفَقِتُوا أَوْلِيَاءَ الشَّيْطَانِ إِنَّ كَيْدَ الشَّيْطَانِ  
كَانَ ضَعِيفًا ﴿٧٦﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ قِيلَ لَهُمْ كُفُّوا أَيْدِيَكُمْ وَأَقِيمُوا  
الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ فَآمَّا كُتِبَ عَلَيْهِمُ الْقِتَالُ إِذَا فُيِقُوا مِنْهُمْ  
يَخْشَوْنَ النَّاسَ كَخَشْيَةِ اللَّهِ أَوْ أَشَدَّ خَشْيَةً وَقَالُوا رَبَّنَا لِمَ كُتِبَتْ  
عَلَيْنَا الْقِتَالُ لَوْلَا أَخَّرْتَنَا إِلَى أَجَلٍ قَرِيبٍ قُلْ مَتَاعُ الدُّنْيَا قَلِيلٌ  
وَالْآخِرَةُ خَيْرٌ لِمَنِ اتَّقَى وَلَا يُظْلَمُونَ فَتِيلًا ﴿٧٧﴾ أَيْنَمَا تَكُونُوا  
يُذَكِّرُ كَثِيرٌ مِنَ الْمَوْتِ وَلَوْ كُنْتُمْ فِي رُجُوعٍ مُشِيدَةً وَإِنْ تَصَبَّهُمْ حَسَنَةٌ  
يَقُولُوا هَذِهِ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ وَإِنْ تَصَبَّهُمْ سَيِّئَةٌ يَقُولُوا هَذِهِ مِنْ  
عِنْدِكَ قُلْ كُلُّ مَنْ عِنْدَ اللَّهِ فَمَالٌ هُوَ لِأَنَّ الْقَوْمَ لَا يَكَادُونَ يَفْقَهُونَ  
حَدِيثًا ﴿٧٨﴾ مَا أَصَابَكَ مِنْ حَسَنَةٍ فَمِنَ اللَّهِ وَمَا أَصَابَكَ مِنْ سَيِّئَةٍ  
فَمِنَ نَفْسِكَ وَأَرْسَلْنَاكَ لِلنَّاسِ رَسُولًا وَكَفَى بِاللَّهِ شَهِيدًا ﴿٧٩﴾

75 信者たちよ、アッラーの御言葉を最高のものとし、弱い男女や子供たちを救うべく、アッラーの道において奮闘努力することからあなたがたを阻むのは何なのか?かれらはアッラーに、こう祈っている。「主よ、わたしたちをマッカから救い出して下さい。かの民はアッラーに対するシルク(多神)と、僕たちへの侵犯により、不正を働いています。あなたの御許から、わたしたちの保護者と援助者をお授け下さい。」

76 誠実な信者たちはアッラーの道において、かれの御言葉が最高のものとなるべく戦う。他方、不信仰者たちは、かれらの神々のために戦う。シャイタンの援助者たちと戦え。もし戦うならば、あなたがたはかれらに勝利しよう。なぜならシャイタンの采配は弱いものであり、アッラーに委ねる者たちを害することはないからだ。

77 使徒よ、戦いが義務づけられることを求めた教友たちのことを、あなたは知らないのか?かれらには(戦いが義務づけられる以前)、こう言われていた。「戦いを慎め。礼拝を行い、浄財を払うのだ。」そしてマディーナへと移住した後、イスラムが強勢となり、戦いが義務づけられると、ある種の者は困難を感じた。かれらはアッラーに対する恐怖か、あるいはそれ以上の恐怖を人々に対して抱くようになり、こう言ったのだ。「主よ、どうしてわたしたちに戦いを義務づけたのですか?わたしたちが現世を楽しむまで、もう少しそれを後らせてもらえませんか?」使徒よ、言ってやれ。「現世の享樂はどれほどのものであっても、わずかであり、消え行くもの。来世こそはアッラーを畏れる者にとってよりよく、安寧が永続する。あなたがたの善行は、たとえそれがナツメヤシの種に付着している糸くずほどのものだったとしても、少しも減らされることはない。」

78 あなたがたの期限が到来すれば、あなたがたがどこにようと死はやって来る。たとえ戦場から遠く離れた、堅固な城砦の中にあつたとしてもそうである。偽信者たちは、子供や豊かな糧などに恵まれれば、こう言う。「これはアッラーの御許からのもの。」しかし子供や糧に関して災難があれば、預言者を不吉がって、こう言うのだ。「この凶事は、あなたが原因だ。」使徒よ、反論して言え。「順境も逆境も全て、アッラーの定めによるもの。」このようなことを言う者たちはどうしたことであろう、あなたの言葉を理解しないかのようである。

79 アーダムの子よ、あなたが授かる糧や子供などの喜ばしいものは、アッラーからの恩恵である。他方、子供や糧に関しての災難は、あなたがた自身とその罪から生じたもの。預言者よ、われらはあなたをアッラーの御許からの使徒として、全人類に遣わした。あなたは主の伝言を伝達するのみ。あなたが伝えたことの正しさに関しては、アッラーから授けられた明証ゆえ、アッラーだけで証人として十分なのだ。

#### 本諸節の功德:

- アッラーの道において、かれの御言葉が最高のものとし、弱者たちを救出するために戦うことの義務。恐怖、臆病さ、アッラーの法規定からの背反に対する非難。
- アッラーを畏れ、かれへの服従行為を行う者にとって、来世の世界は、現世とそこにある享樂や欲望に優る。
- よいことも悪いことも全て、アッラーの定めによるもの。アッラーは何らかの理由ゆえ、僕たちを現世で凶事によって試練にかけられるかもしれない。罪やアッラーへの反抗は、そういった理由の一つである。

مَنْ يُطِيعِ الرَّسُولَ فَقَدْ أَطَاعَ اللَّهَ وَمَنْ تَوَلَّى فَمَا أَرْسَلْنَاكَ عَلَيْهِمْ حَفِيظًا ﴿٨٥﴾ وَيَقُولُونَ طَاعَةٌ فَإِذَا بَرَزُوا مِنْ عِنْدِكَ بَيَّتَ طَائِفَةٌ مِنْهُمْ غَيْرَ الَّذِي تَقُولُ وَالَّذِي يَكْتُبُ مَا يُبَيِّنُونَ فَأَعْرَضَ عَنْهُمْ وَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ وَكَفَى بِاللَّهِ وَكِيلًا ﴿٨٦﴾ أَفَلَا يَتَذَكَّرُونَ الْفَرِيعَ إِنْ وَلَوْ كَانَ مِنْ عِنْدِ غَيْرِ اللَّهِ لَوَجَدُوا فِيهِ اخْتِلَافًا كَثِيرًا ﴿٨٧﴾ وَإِذَا جَاءَهُمْ أَمْرٌ مِنَ الْأَمْنِ أَوِ الْخَوْفِ أَذَاعُوا بِهِ وَلَوْ رَدُّوهُ إِلَى الرَّسُولِ وَإِلَى أُولِي الْأَمْرِ مِنْهُمْ لَعَلِمَهُ الَّذِينَ يَسْتَنْبِطُونَهُ مِنْهُمْ وَلَوْلَا فَضْلُ اللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُ لَاتَّبَعْتُمُ الشَّيْطَانَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٨٨﴾ فَقَاتِلْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ لَعَلَّكَ تُكْفَفُ لَأَنْفُسِكَ وَحَرِّضَ الْمُؤْمِنِينَ عَسَى اللَّهُ أَنْ يَكْفِ بِأَسِ الَّذِينَ كَفَرُوا وَاللَّهُ أَشَدُّ بِأَسَا وَأَشَدُّ تَنكِيلًا ﴿٨٩﴾ مَنْ يَشْفَعْ شَفْعَةً حَسَنَةً يَكُنْ لَهُ نَصِيبٌ مِنْهَا وَمَنْ يَشْفَعْ شَفْعَةً سَيِّئَةً يَكُنْ لَهُ وَكُفْلٌ مِنْهَا وَكَانَ اللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ مُقْبِتًا ﴿٩٠﴾ وَإِذَا حُيِّيتُمْ بِتَحِيَّةٍ فَحَيُّوا بِأَحْسَنَ مِنْهَا أَوْ رُدُّوهَا إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ حَسِيبًا ﴿٩١﴾

80 アッラーのご命令と禁止事項の遵守によって使徒に従う者は、アッラーのご命令に確かに応えたのだ。そして使徒よ、あなたへの服従に背を向けた者について、悲しむのではない。われらはあなたを、そのような者の行動を監視する者として遣わしたわけではないのだ。その行いを数え上げ、清算するのは、われらなのである。

81 偽信者たちは口先で、あなたにこう言う。「あなたの命令に従い、あなたに続きましょう。」しかしあなたから離れると、かれらの内の一団は、あなたの前では見せない企みをひっそりとする。アッラーがかれらの企みに応じるのだから、かれらのことは気にするな。かれらがあなたを害することなどはない。あなたのことはアッラーに委ね、信頼せよ。アッラーは信頼できる保護者として十分なのだ。

82 どうしてかれらはクルアーンを熟慮し、学ばないのか? そうすれば、そこには矛盾や混乱がなく、正しいということが確実になるのに。もしクルアーンがアッラー以外からのものであったとしたら、かれらはその法規定には混乱を、その意味の中には多くの矛盾を見出しただろう。

83 偽信者のもとに、ムスリムたちの安全、喜び、恐怖、悲しみなどに関する知らせが伝われば、かれらはそれを漏らして広める。だが、もしかれらが性急にならず、そのことをアッラーの使徒(祝福と平安あれ)や、見識を有する人々に託したならば、かれらはそれを広めるか内密にしておくかの対処の仕方を知ったであろう。信者たちよ、イスラームという恩恵とクルアーンというあなた方へのアッラーのお慈悲により、あなた方は偽信者らが直面している試練から無事なのだ。そうでなかったら、あなた方の少数の者以外はシャイターン(悪魔)の囁きに従ってしまっただろう。

84 だから使徒よ、アッラーの道において、かれの御言葉が最高のもとなるべく、戦え。あなた以外の者について、あなたが責任を受けたり、義務を課されたりすること、あなたが戦うことによって、不信仰者たちの力を退けて下さるかもしれない。アッラーは最も強く、最も罰の厳しいお方。

85 他人の役に立つために努力する者には報奨があり、他人に悪事をもたらす者には罪がある。アッラーは人間が行うあらゆることの証人であり、それに対して報いる。善いことが起きる原因となった者には善の取り分があり、悪いことが起きる原因となった者には悪の取り分があるのだ。

86 あなたがたが誰かから挨拶されたら、それよりもよい挨拶か、同等の挨拶で返せ。だが、よりよい挨拶で返す方がよい。アッラーはあなたがたが行うこと全てを記録し、各人にその行いに応じて報いる。

### 本諸節の功德:

- クルアーンの熟慮は、それがアッラーの御許からのものであるという確信をもたらす。それはクルアーンが矛盾から無縁であり、その法規定の偉大さが明らかになるためだ。
- 信者たちの安全が危うくなったり、かれらを恐怖に陥れるような情報を広めることの禁止。
- ムスリムの諸問題や、かれらに関係する諸事に関して語るのは、かれらの中の知識ある者や、権威のある者でなければならない。
- 罪や他者の権利の侵害とは無縁な、よい執り成しの合法性。罪や侵害のある執り成しは、非合法である。

اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ اجْمَعْتُمْ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ لَا رَيْبَ فِيهِ  
 وَمَنْ أَصْدَقُ مِنَ اللَّهِ حَدِيثًا ﴿٨٧﴾ \* فَمَا كُمْ فِي الْمُنْفِقِينَ  
 فَتَتَيْنِ وَاللَّهُ أَرْكَسَهُنَّ بِمَا كَسَبْنَ وَأَتَّيِدُونَ أَنْ تَهْدُوا مَنْ  
 أَضَلَّ اللَّهُ وَمَنْ يُضِلِّ اللَّهُ فَلَنْ تَجِدَ لَهُ سَبِيلًا ﴿٨٨﴾ وَذُؤُاؤُ تَكْفُرُونَ  
 كَمَا كَفَرُوا فَتَكُونُونَ سَوَاءً فَلَا تَتَّخِذُوا مِنْهُمْ أَوْلِيَاءَ حَتَّى  
 يُهَاجِرُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَخُذُواهُمْ وَأَقْتُلُوهُمْ حَيْثُ  
 وَجَدْتُمُوهُمْ وَلَا تَتَّخِذُوا مِنْهُمْ وِلِيَاءَ وَلَا نَصِيرًا ﴿٨٩﴾ إِلَّا الَّذِينَ  
 يَصِلُونَ إِلَى قَوْمٍ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُمْ مِيثَاقٌ أَوْ جَاءَكُمْ حَصْرَتْ  
 صُدُورُهُمْ أَنْ يَقْتُلُوكُمْ أَوْ يَقْتُلُوا قَوْمَهُمْ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ  
 لَسَاطَهُمْ عَلَيْكُمْ فَلقَتُواكُمْ فَإِنْ عَتَزَلُوكُمْ فَامْرُءٌ يَقْتُلُوكُمْ  
 وَالْقَوْلُ إِلَيْكُمْ السَّلَامُ فَمَا جَعَلَ اللَّهُ لَكُمْ عَلَيْهِمْ سَبِيلًا ﴿٩٠﴾  
 سَتَجِدُونَ أَعْرَابِينَ يُرِيدُونَ أَنْ يَأْمَنُوكُمْ وَيَأْمَنُوا قَوْمَهُمْ كُلَّ  
 مَا رَدُّوْا إِلَى الْفِتْنَةِ أُرْكَسُوا فِيهَا فَإِنْ لَمْ يَعْتَزِلُوكُمْ وَيَلْقُوا  
 إِلَيْكُمْ السَّلَامَ وَيَكْفُوا أَيْدِيَهُمْ فَخُذُواهُمْ وَأَقْتُلُوهُمْ حَيْثُ  
 تَقِفْتُمُوهُمْ وَأُولِيكُمْ جَعَلْنَا لَكُمْ عَلَيْهِمْ سُلْطَانًا مُبِينًا ﴿٩١﴾

87) アッラーは、他に真に崇拜すべきものが存在しないお  
 方。かれは疑念のない審判の日に、あなたがたの内の最  
 初の者も最後の者も、お集めになる。それは行いに応じ  
 て報いを受けるためである。アッラーよりも正しい言葉を  
 語るお方は、存在しない。

88) 信者たちよ、偽信者たちとの付き合い方に関し、あな  
 たがたが二つの派に分かれたのはどういうことか？二派  
 の内の一派は、かれらを不信仰者として戦いを主張し、も  
 う一派はかれらを信者として戦いの放棄を訴える。かれ  
 らのことに関し、意見を違わせるべきではない。アッラー  
 はかれらの行いゆえ、かれらを不信仰と迷いへと追いや  
 られたのである。あなたがたは、アッラーが真理へと導か  
 なかった者を、導きたいというのか？アッラーが迷わせた  
 者は、導きへの道を見出すことはない。

89) 偽信者たちは、あなたがたがかれらと同様、啓示を否  
 定し、同様の不信仰に陥ることを望んでいる。かれらがシ  
 ルク(多神)の世界からイスラームの土地に、アッラーゆえ  
 に移住するまで、かれらの内から友を得てはならない。そ  
 れがかれらの信仰の証なのだ。もしかれらが背を向け続  
 けるのであれば、かれらを見つける先で捕まえ、殺すの  
 だ。かれらを、物事を委ねる友や、敵に対するあなたがた  
 の援助者としてはならない。

90) ただしかれらの内、あなたがたとの間に休戦協定が  
 ある民のもとにやって来たり、あなたがたにも自分の民  
 に対しても戦意喪失し、落胆してあなたがたのもとにや  
 って来たりした者は別である。もしアッラーがお望みな  
 ら、かれらのことをあなたがたよりも優位にし、あなたが  
 たと戦わせたであろう。しかしアッラーから授かった無  
 事安泰を受け入れよ。かれらを殺害したり、捕虜にしたり  
 しようとしてはいけない。かれらが戦いを放棄して平和  
 を望みつつやって来たのなら、アッラーはもはやかれら  
 を殺害したり捕虜にしたりすることを、お許しにはならな  
 い。

91) 信者たちよ、あなたがたは偽信者の別の一派を見出すであらう。かれらは自分たちの安全確保のため、あなたがたの前で信者  
 を装う。そして不信仰の民のもとに戻れば、かれらからの安全確保のため、不信仰をあらわにする。かれらはアッラーへの不信仰や  
 シルクへと招かれれば、完全にそこに陥ってしまうのだ。もしかれらがあなたがたとの戦いをやめず、平和を望んで投降もしないな  
 ら、見つける先で捕まえ、殺すのだ。これらの者たちに関しては、その裏切りと策謀ゆえ、われらはあなたがたに殺害と捕囚の根拠  
 を与えたのである。

#### 本諸節の功德:

- ある種の偽信者たちは不明瞭な状態だったため、かれらへの対応の仕方に関し、信者たちの間に意見の違いが生じた。
- 偽信者たちとの接し方の説明。それはかれらの状態や、信者たちとの利害関係によって異なる。
- 偽信者でも有害でない者は害さないという、イスラームの公正さ。
- アッラーの道における奮闘努力は、偽信者たちを明らかにする。かれらは奮闘努力から遠ざかり、手の込んだ言い訳をする。

وَمَا كَانَ لِمُؤْمِنٍ أَنْ يَقْتُلَ مُؤْمِنًا إِلَّا خَطَاً وَمَنْ قَتَلَ  
 مُؤْمِنًا خَطَاً فَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مُؤْمِنَةٍ وَرِدِيَّةٌ مُسَلَّمَةٌ  
 إِلَىٰ أَهْلِهِ إِلَّا أَنْ يَصَدَّقُوا فَإِنْ كَانَ مِنْ قَوْمٍ عَدُوٍّ  
 لَكُمْ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مُؤْمِنَةٍ وَإِنْ كَانَ  
 مِنْ قَوْمٍ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُم مِّيثَاقٌ فَدِيَّةٌ مُسَلَّمَةٌ إِلَىٰ  
 أَهْلِهِ وَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مُؤْمِنَةٍ فَمَنْ لَمْ يَجِدْ فَصِيَامُ  
 شَهْرَيْنِ مُتَتَابِعَيْنِ تَوْبَةً مِنَ اللَّهِ وَكَانَ اللَّهُ  
 عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿٩٣﴾ وَمَنْ يَقْتُلْ مُؤْمِنًا مُتَعَمِّدًا  
 فَجَزَاؤُهُ جَهَنَّمُ خَالِدًا فِيهَا وَغَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِ  
 وَلَعَنَهُ وَأَعَدَّ لَهُ عَذَابًا عَظِيمًا ﴿٩٤﴾ يَتَأَيُّهَا الَّذِينَ  
 ءَامَنُوا إِذَا ضَرَبْتُمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَتَبَيَّنُوا وَلَا تَقُولُوا  
 لِمَنْ آَلَقْنَا إِلَيْكُمْ السَّلَامَ لَمْ تَمُؤْمِنَاتَبَتَعُونَ  
 عَرَضَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا فَعِنْدَ اللَّهِ مَعَانِمٌ كَثِيرَةٌ  
 كَذَلِكَ كُنْتُمْ مِنْ قَبْلُ فَمَنْ اللَّهُ عَلَيْكُمْ  
 فَتَبَيَّنُوا إِنَّ اللَّهَ كَانَ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿٩٥﴾

⑨2 過失ではない限り、信者が信者を殺害することがあってはならない。信者を過失で殺害してしまった場合、罪滅ぼしとして奴隷の信者を一人解放し、更に加害者の親族が、被害者の遺族に血の代償を支払う。ただしかれら(被害者の遺族)が血の代償を免じた場合は、別だが。また、被害者が信者ではあっても、あなたがたと戦争中にある民の者であった場合、加害者に血の代償の義務はないが、奴隷の信者を一人解放しなければならないが。また、被害者が信者ではなくても、あなたがたとの間に被保護民協定などの協約がある民の者だったら、加害者の遺族は被害者の遺族に血の代償を支払い、罪滅ぼしとして奴隷の信者を一人解放する。もし解放する奴隷がない場合や、解放するための金額を支払えなければ、アッラーに悔悟しつつ、連続二カ月の齋戒をする。アッラーは僕の意図も行いもご存知であり、その法と采配において英知あふれたお方。

⑨3 信者を正当な理由もなく、故意に殺害する者の報いは、永遠の地獄である。アッラーのお怒りを受け、お慈悲から遠ざけられるのだ。そのような大きな罪に対し、アッラーは偉大な罰を準備した。

⑨4 アッラーを信じ、その使徒に従う者たちよ。アッラーの道における戦いに出たならば、あなたがたが戦おうとする相手について確証を得よ。イスラーム教徒であることを示した者に対し、「あなたは信者ではない。あなたがイスラーム教徒を装うのは、生命や財産に対する恐怖のせいだ」と言うてはならない。戦利品などの現世におけるわずかな利益を求めて、このような者を殺害してはならない。アッラーの御許にこそ膨大な戦利品はあり、その方がこのようなものよりも善いのだ。あなたがたもまた以前は自分たちの民に信仰を隠していたのであるが、アッラーがイスラームの恩恵により、あなたがたの生命を守って下さったのである。だから確証せよ。アッラーはいかに小さなものであっても、あなたがたの行いを全てお見通しであり、それに対して報いられる。

### 本諸節の功德:

- クルアーンは信者の生命の崇高さを重視し、その侵害を禁じ、それに対して最も厳しい刑罰を課している。
- 殺害を犯した信者は地獄に永遠に入ることではなく、地獄で罰された後にアッラーのお慈悲によって救い出されるというのが、スンナと団結の民の信仰箇条。
- 戦いにおいては無実な者が侵害を受けることのないよう、人々に対して性急な決定を下すことなく確証することが義務となる。

لَا يَسْتَوِي الْقَاعِدُونَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ غَيْرُ أُولِي الضَّرَرِ وَالْمُجَاهِدُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ بِأَمْوَالِهِمْ وَأَنْفُسِهِمْ فَضَّلَ اللَّهُ الْمُجَاهِدِينَ بِأَمْوَالِهِمْ وَأَنْفُسِهِمْ عَلَى الْقَاعِدِينَ دَرَجَةً وَكُلًّا وَعَدَ اللَّهُ الْحُسْنَىٰ وَفَضَّلَ اللَّهُ الْمُجَاهِدِينَ عَلَى الْقَاعِدِينَ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٩٥﴾ دَرَجَاتٍ مِّنْهُ وَمَغْفِرَةً وَرَحْمَةً وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ﴿٩٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ تَوَفَّيْنَاهُمُ الِّمَلَائِكَةَ ظَالِمًا لِّنَفْسِهِمْ أَلْأُولَئِكَ مَا تَسْتَضَعِفِينَ فِي الْأَرْضِ قَالُوا لِمَ تَكُنْ أَرْضُ اللَّهِ وَسِعَةً فَهَاجِرُوا فِيهَا قَالُوا لِيكَ مَا وَوَلَهُمْ جَهَنَّمُ وَسَاءَتْ مَصِيرًا ﴿٩٧﴾ إِلَّا الِّمُسْتَضَعِفِينَ مِنَ الرِّجَالِ وَالنِّسَاءِ وَالْوِلْدَانِ لَا يَسْتَطِيعُونَ حِيلَةً وَلَا يَهْتَدُونَ سَبِيلًا ﴿٩٨﴾ قَالُوا لِيكَ عَسَىٰ اللَّهُ أَن يَعْزُبَ عَنْهُمْ وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ﴿٩٩﴾ وَمَنْ يُهَاجِرْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ يَجِدْ فِي الْأَرْضِ مُرْعَمًا كَثِيرًا وَسِعَةً وَمَنْ يَخْرُجْ مِنْ بَيْتِهِ مُهَاجِرًا إِلَى اللَّهِ وَرَسُولِهِ ثُمَّ يُدْرِكْهُ الِّمَوْتُ فَقَدْ وَقَعَ أَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ﴿١٠٠﴾ وَإِذَا صَرَيْتُمْ فِي الْأَرْضِ فَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَن تَقْصُرُوا مِنَ الصَّلَاةِ إِنْ خِفْتُمْ أَن يَفْتِنَكُمْ الَّذِينَ كَفَرُوا إِنَّ الِّكُفْرِينَ كَانُوا أَعْدَاؤَ مُمِينًا ﴿١٠١﴾

الْحَبَشِيُّ

95 病氣や障害など正当な理由がないのに、アッラーの道における奮闘努力をすることもなく残留する信者と、生命と財産をかけてアッラーの道において奮闘努力する者は、同様でない。アッラーは、生命と財産をかけてアッラーの道において奮闘努力する者たちを、奮闘努力せずに残留する者たちよりも、一段階上の位に置かれる。そして奮闘努力する者たちも、正当な理由ゆえに奮闘努力せずに残留する者にも、それぞれに相応しい報奨がある。しかしアッラーは残留者よりも、奮闘努力する者をお喜びになり、偉大な報奨を授けて下さるのだ。

96 この報奨には、それぞれ差がある。またかれらには、アッラーからの罪のお赦しと、お慈悲もある。アッラーはその僕に赦し深いお方であり、慈悲深いお方。

97 不信仰の土地からイスラームの土地へと移住をせず、自らに不正を働いている状態のまま天使が来て寿命を終えた者たち。天使たちはかれらの魂を引き抜く際、かれらを責めてこう言う。「あなたがたはどのような状態だったのか？あなたがたを多神教徒たちから区別するのは何か？」かれらは言い訳をする。「わたしたちは弱くて、身を守る力を有していませんでした。」すると天使たちは、かれらを咎めて言う。「アッラーの土地は、広がったのではないか？あなたがたは宗教と生命を恥辱や迫害から守るため、出て行くことが出来たのではないか？」移住しなかったそれらの者たちの定住先は、地獄。それはかれらにとって、何と忌まわしい帰り所であろうか。

98 - 99 正当な理由がある弱者たちは、男女や子供の別なく、この警告から除外される。かれらは不正や抑圧に抵抗する力がなく、抑圧状態から脱出する術のなかった者たちである。アッラーはそのお慈悲ゆえ、かれらをお赦し下さるだろう。アッラーはその僕たちを大目に見、悔悟する者に赦し深いお方。

アッラーはそうする力があっても関わらず移住しなかった者への警告の後、今度は移住を奨励してこう言われる。

100 アッラーのお喜びを求めて、不信仰の土地からイスラームの土地へと移住する者は、移住先でよい転機と、後にした土地とは違う土地を見出すだろう。そしてそこで、威光と多くの糧を得るだろう。アッラーとその使徒のもとへと移住し、移住先に到着する前に死が訪れた者には、アッラーからの報奨がある。移住先に到着できなかったことが、かれを害することはない。アッラーは悔悟する僕に赦し深く、慈悲深いお方。

101 地上を旅した際には、4ラクア（訳者注：ラクアは礼拝を数える単位）の礼拝を2ラクアに短縮しても罪はない。もし不信仰者たちから被害を受けることを、あなた方が恐れるのであれば。不信仰者たちのあなた方に対する敵意は、明白なのだ。正しいスナナとして、安全な状態での旅行中の礼拝短縮は認可されるというのが定説である。

**本諸節の功德:**

- アッラーの道における奮闘努力の徳と、その報奨の偉大さ。アッラーはかれらに、他の者が獲得出来ないような、天国での高い位を約束された。
- 正当な理由がある者からは戦いの義務が免除される上、正しい意図があれば、報奨を得ることもできる。
- 自分の土地で宗教を遵守できない恐れがあり、かつ移住する力がある者にとって、イスラームの土地へと移住することの徳。
- 旅行中の礼拝短縮の合法性。

وَإِذَا كُنْتَ فِيهِمْ فَأَقَمْتَ لَهُمُ الصَّلَاةَ فَلْتَقُمْ طَآئِفَةٌ  
 مِنْهُمْ مَعَكَ وَلْيَأْخُذُوا أَسْلِحَتَهُمْ فَإِذَا سَجَدُوا فَلْيَكُونُوا  
 مِنْ وَرَائِكُمْ وَلِتَأْتِ طَآئِفَةٌ أُخْرَى لَمْ يُصَلُّوا فَلْيُصَلُّوا  
 مَعَكَ وَلْيَأْخُذُوا حِذْرَهُمْ وَأَسْلِحَتَهُمْ وَذَ الَّذِينَ  
 كَفَرُوا لَوْ تَغْفُلُونَ عَنْ أَسْلِحَتِكُمْ وَأَمْتِعَتِكُمْ فَيَمِيلُونَ  
 عَلَيْكُمْ مَيْلَةً وَاحِدَةً وَلَا جَنَاحَ عَلَيْكُمْ إِنْ كَانَ بِكُمْ  
 أَذًى مِنْ مَطَرٍ أَوْ كُنْتُمْ مَرَضَى أَنْ تَضَعُوا أَسْلِحَتَكُمْ  
 وَخُذُوا حِذْرَكُمْ إِنَّ اللَّهَ أَعَدَّ لِلْكَافِرِينَ عَذَابًا مُهِينًا ﴿١٥٢﴾  
 فَإِذَا قَضَيْتُمُ الصَّلَاةَ فَادْكُرُوا اللَّهَ قِيَمًا وَفُوعِدُوا وَعَلَى  
 جُنُوبِكُمْ فَإِذَا اطْمَأْنَنْتُمْ فَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ إِنَّ الصَّلَاةَ  
 كَانَتْ عَلَى الْمُؤْمِنِينَ كِتَابًا مَوْقُوتًا ﴿١٥٣﴾ وَلَا تَهِنُوا فِي  
 ابْتِغَاءِ الْقُوَى إِنْ تَكُونُوا تَأْمُونًا فَإِنَّهُمْ يَأْمُونُ كَمَا  
 تَأْمُونُ وَتَرْجُونَ مِنَ اللَّهِ مَا لَا يَرْجُونَ وَكَانَ اللَّهُ  
 عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿١٥٤﴾ إِنَّا أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ الْكِتَابَ بِالْحَقِّ لِتَحْكُمَ  
 بَيْنَ النَّاسِ بِمَا أَرَبَكَ اللَّهُ وَلَا تَكُنْ لِلْخَائِنِينَ خَصِيمًا ﴿١٥٥﴾

から望んでいるのだ。アッラーは僕の状態をご存知であり、その采配と法において英知にあふれたお方。

﴿155﴾使徒よ、われらはあなたに、真理を含むクルアーンを下した。それはあなたの私欲や意見ではなく、アッラーがあなたに教え、示したものによって、人々をあらゆる物事において裁決するためである。自分自身や信託を欺いている者たちの弁護人となり、かれらを真理で裁こうとする者を退けてはならない。

#### 本諸節の功德:

- 恐怖の状態にある時の特別な礼拝の推奨と、その法規定、および形式の説明。
- どんな状態にあっても、原因となる物事を行うことの命令。たとえ崇拜行為の中にあつたとしても、信者がそれを放棄することは許されない。
- どのような状況にあってもアッラーを念じ続けることの合法性。それは心の生命であり、安寧の元である。
- 敵との戦いの際、弱気になったり怠慢になったりする事の禁止。および、敵との戦いにおける忍耐の命令。

﴿152﴾使徒よ、あなたが敵との戦いで軍と共にある時、礼拝しようと思ったら、軍を二団に分けよ。一団にはあなたと一緒に礼拝させ、礼拝の最中に武器を持たせよ。そしてもう一団は、あなたがたの警護に当たらせよ。最初の一団はイマーム(礼拝の先導者)と共に1ラクアを行ったら、残りは自分たちで完遂する。そして礼拝し終わったら、敵の方を向きつつ、あなたがたの後方に留まる。それからあなたがたの警護をしていた、まだ礼拝をしていない一団がやって来て、イマームと共に1ラクアを礼拝する。イマームが礼拝を終えて挨拶したら、かれらは残りのラクアを完遂して礼拝を終える。かれらには敵を警戒させ、武器を持たせよ。不信仰者たちは、礼拝中にあなたがたが武器や道具に対して不注意になった時、一気に襲いかかることを望んでいる。あなたがたに雨の被害があつたり、病気だつたりした場合、武器を置いてても罪はない。可能な限り、敵から身を守るのだ。アッラーは不信仰者たちに、屈辱的な罰を準備されている。

﴿153﴾信者たちよ、礼拝が終わったら、立ちながらも、座りながらも、横になりながらも、どんな状態であってもよいから、アッラーを称えたり、讚美したり、その唯一性を唱えたりして念じよ。恐怖が去って安全な状態になったら、あなたがたが命じられた通りに、礼拝をその基幹行為、義務行為、勧められた行為などを全うしつつ、行うのだ。礼拝は信者たちに、決まった時間帯での義務として定められている。正当な理由なくして礼拝を遅らせることは許されないが、これは滞り状態の場合である。旅行中の際には、礼拝のまとめと短縮が許される。

﴿154﴾信者たちよ、不信仰者である敵を追うことにおいて、弱気になってはならない。あなたがたが殺害や負傷で苦しんでいたとしても、かれらもまたあなたがたが苦しんでいるように苦しんでおり、あなたがたが被害を受けているように被害を受けているのだ。だから忍耐において、かれらに負けてしまつてはならない。あなたがたはかれらが望んではいないような、報奨、勝利、援助を、アッラーから

وَأَسْتَغْفِرِ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَحِيمًا ﴿١٠٦﴾ وَلَا تَجِدُ  
 عَنِ الَّذِينَ يَخْتَلُونَ أَنفُسَهُمْ إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ مَن كَانَ  
 خَوَّانًا أَثِيمًا ﴿١٠٧﴾ يَسْتَخْفُونَ مِنَ النَّاسِ وَلَا يَسْتَخْفُونَ  
 مِنَ اللَّهِ وَهُوَ مَعَهُمْ إِذْ يُبَيِّتُونَ مَا لَا يَرْضَىٰ مِنَ الْقَوْلِ  
 وَكَانَ اللَّهُ بِمَا يَعْمَلُونَ مُحِيطًا ﴿١٠٨﴾ هَذَا نَسْرَهُ هَؤُلَاءِ  
 جَدَلْتُمْ عَنْهُمْ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا فَمَن يُجِدِ اللَّهُ عَنَّهُمْ  
 يَوْمَ الْقِيَامَةِ أَمْرًا مِّنْ يَّكُونُ عَلَيْهِمْ وَكَيْلًا ﴿١٠٩﴾ وَمَن يَعْمَلْ  
 سُوءًا أَوْ يَظْمَرْ نَفْسَهُ وَتَمَّ يَسْتَغْفِرِ اللَّهُ يَجِدِ اللَّهُ غَفُورًا  
 رَّحِيمًا ﴿١١٠﴾ وَمَن يَكْسِبْ إِثْمًا فَإِنَّمَا يَكْسِبُهِ وَعَلَىٰ نَفْسِهِ  
 وَكَانَ اللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿١١١﴾ وَمَن يَكْسِبْ خَطِيئَةً  
 أَوْ إِثْمًا ثُمَّ يَرْمِ بِهِ بَرِيئًا فَقَدِ احْتَمَلَ بُهْتَانًا وَإِثْمًا مُّبِينًا  
 ﴿١١٢﴾ وَلَوْ لَا فَضْلُ اللَّهِ عَلَيْكَ وَرَحْمَتُهُ لَهَمَّتْ طَائِفَةٌ مِّنْهُمْ  
 أَن يُضِلُّوكَ وَمَا يُضِلُّونَ إِلَّا أَنفُسَهُمْ وَمَا يَضُرُّونَكَ  
 مِن شَيْءٍ وَأَنزَلَ اللَّهُ عَلَيْكَ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَعَلَّمَكَ  
 مَا لَمْ تَكُن تَعْلَمُ وَكَانَ فَضْلُ اللَّهِ عَلَيْكَ عَظِيمًا ﴿١١٣﴾

106 アッラーから罪の赦しを求めよ。アッラーは悔悟する僕に赦し深く、慈悲深いお方。

107 騙したり、ごまかしを隠蔽しようと躍起になったりする者のために、弁護の議論をしてはならない。アッラーは裏切りと罪の多い者を好まれないのである。

108 かれらは人前では罪を犯したことを恐怖と羞恥心から隠そうとするが、アッラーに対しては隠そうとしない。罪人の弁護や無実の者の告発など、アッラーがお喜びにならない言葉を秘密裏に画策している時、かれはかれらのことを包囲しており、全てお見通しなのだ。アッラーは、かれらが秘密裏にでも公にでも、行っていること全てをご存知であり、その行いに応じてかれらに報われる。

109 罪を犯しているそれらの者たちに関係している者たちよ、あなたがたはかれらの潔白を証明し、刑罰から守るために、現世においてかれらのために弁護をした。しかし審判の日には、誰がかれらの弁護のためにアッラーと議論するのか？アッラーはかれらの真実をご存知であるのに。その日、一体誰がかれらの請負人となるのか？疑いの余地なく、誰もそうすることが出来る者はいない。

110 罪を犯すことで自分自身に不正を働いた後、自分の罪を認め、後悔し、そこから手を引く者は、アッラーが常に赦し深く、慈悲深いお方であることを見出すだろう。

111 大小を問わず罪を犯す者は、自分自身がその罰を背負うのであり、別の者がその責任を問われることはない。アッラーは僕たちの行いを ご存知であり、その采配と法において英知あふれたお方。

112 故意かどうかは別にして、罪を犯した後、その罪を別の無実な人間になすりつける者は、その行いによってひどい嘘と、明らかな罪を犯している。

113 使徒よ、もしあなたへのご加護というアッラーのお恵みがなければ、自分自身を欺く者たちの一派は、あなたを真理から迷わせ、公正ではない裁決を下させるべく決意したであろう。しかしかれらが真に害しているのは、かれら自身のみ。迷わせようとしている行為の結果は、かれら自身に返って来るのであり、アッラーのあなたへのご加護を前にかれらがあなたを害することはできないのである。アッラーはあなたにクルアーンとスンナを下し、あなたが以前は知らなかった導きと光を教えて下さった。あなたに対する預言者性のご加護というアッラーからのお恵みは、偉大なのだ。

**本諸節の功德:**

- 虚偽の徒を弁護することの禁止。それは罪と侵害における協力である。
- 真の信者は、アッラーに対する恐怖と羞恥心、かれを偉大に思う心を、どのような人間に対する感情よりも優先させるべきである。
- 自分自身に対して不正を働く者に対しての、アッラーのお慈悲と赦し深さの偉大さ。それはその者が心から悔悟し、罪から手を引く限りにおいてであり、その不正の度合いは問わない。
- 無実な者に罪を着せることに対する警告。そのようなことをする者は、ひどい嘘と罪を犯したことになる。

\* لَّا خَيْرَ فِي كَثِيرٍ مِّنْ مَّجْلُومٍ إِلَّا مَن أَمَرَ بِصَدَقَةٍ  
 أَوْ مَعْرُوفٍ أَوْ إِصْلَاحٍ بَيْنَ النَّاسِ وَمَن يَفْعَلْ ذَلِكَ  
 ابْتِغَاءَ مَرْضَاتِ اللَّهِ فَسَوْفَ نُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١١٥﴾ وَمَن  
 يُشَاقِقِ الرَّسُولَ مِن بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُ الْهُدَىٰ وَيَتَّبِعْ غَيْرَ  
 سَبِيلِ الْمُؤْمِنِينَ نُوَلِّهِ مَا تَوَلَّىٰ وَنُصَلِّهِ ۗ جَهَنَّمَ وَسَاءَتْ  
 مَصِيرًا ﴿١١٦﴾ إِنَّ اللَّهَ لَا يَغْفِرُ لِمَن يُشْرِكْ بِهِ ۗ وَيَغْفِرُ لِمَن يَدُونَ  
 ذَلِكَ لِمَن يَشَاءُ ۗ وَمَن يُشْرِكْ بِاللَّهِ فَقَدْ ضَلَّ ضَلَالًا  
 بَعِيدًا ﴿١١٧﴾ إِن يَدْعُونَ مِن دُونِهِ ۖ إِلَّا إِنثَانًا مِّن دَعْوَتِكَ  
 إِنَّا لَآلِ شَيْطَانًا مَّرِيدًا ﴿١١٨﴾ لَعَنَهُ اللَّهُ وَقَالَ لَأَتَّخِذَنَّ مِنَ  
 عِبَادِكَ نَصِيبًا مَّفْرُوضًا ﴿١١٩﴾ وَلَا ضَلَّتْهُمْ وَلَا امْتَدَّتْهُمْ  
 وَلَا مَرَّتْهُمْ فَلَيْبَتِي كُنَّ ءَاذَانُ الْأَنْعَامِ وَلَا مِرَّتْهُمْ  
 فَلْيَغْيِرَنَّ خَلْقَ اللَّهِ وَمَن يَتَّخِذِ الشَّيْطَانَ وَلِيًّا مِّن  
 دُونِ اللَّهِ فَقَدْ خَسِرَ خُسْرَانًا مُّبِينًا ﴿١٢٠﴾ يَعِدُهُمْ  
 وَيُمَتِّعُهُمْ وَمَا يَعِدُهُمُ الشَّيْطَانُ إِلَّا الْأَعْرُورَ ﴿١٢١﴾ وَأُولَٰئِكَ  
 مَأْوَلُهُمْ جَهَنَّمَ وَلَا يُجَدُّونَ عَنْهَا مَجِيصًا ﴿١٢٢﴾

114 人々が密談する話の多くに、利益はない。ただし、施しを促すものだったり、イスラームの教えと理性に基づく善行だったり、議論する二者間の和解への呼びかけだったりする場合は別だ。アッラーのお喜びを求めて行う者に、われらは偉大な報奨を受けよう。

115 使徒に楯突き、その教えが真理であることが明らかになった後で、反抗する者。信者以外の道に従う者を、われらはかれ自身の選択にまかせて放っておこう。かれらが故意に真理から背き去っているために、われらはかれらを真理へと導かない。われらはかれらを暑さが厳しい地獄に入れてやる。それはその住人にとって、何とひどい帰り所であろうか。

116 アッラーは、ご自身に被造物の何ものかが並べられることを、お赦しにはならない。かれはシルク(多神)を犯す者を、永遠に地獄にお入れになる。しかしシルク以外の罪であれば、かれはそのお慈悲により、お望みの者に対してお赦しになる。アッラーに対して他のものを並べる者は、真理から迷い去っているのであり、そこからひどく遠ざけられてしまっている。なぜなら、その者は創造主と被造物を並べてしまったからだ。

117 かれらシルク(多神)の民が崇拜し、アッラーに並べて祈っているものは、アッラートやアルウッザーといった、女性の名前を付けられた偶像に過ぎない。それらには益も害もないのだ。かれらが崇拜しているのは実際のところ、アッラーに対する服従から逸脱したシャイターンに過ぎず、かれには何のよいこともない。かれこそは偶像の崇拜を命じた者だからである。

118 そのためにアッラーは、かれをそのお慈悲から遠ざけた。このシャイターンは主に向かって、このように誓って言ったのだ。「わたしはきっと、あなたの僕たちから、一定の数の者を誘惑してみせましょう。

119 わたしはかれらを、あなたの真っ直ぐな道から阻み、かれらの迷妄をまばゆく見せる嘘の約束により、かれらを虚しい期待に耽らせましょう。また、アッラーが合法とされたものを非合法とすべくかれらが家畜の耳を切ることを命じ、アッラーの創造と天性を変形させることを命じましょう。」シャイターンを頼みとし、守護者とする者は、呪われたシャイターンを友とすることで明らかな損失を被っている。

120 シャイターンはかれらに嘘の約束をし、虚しい期待に耽らせる。だが実際のところ、かれがかれらに約束するものは虚妄なのだ。

121 シャイターンの道とその命令に従う者たちの定住先は、地獄の炎。かれらがそこから逃げ道を見出すことはない。

### 本諸節の功德:

- 人々の密談の多くには、よいことがない。それどころか、それは罪深いものかもしれない。かれらの話で、よいことや善行があるものはわずかである。
- 使徒に楯突き、信者たちの道に反する者の結末は、アッラーから遠ざけられ、地獄へ入ることである。
- 全ての罪は、アッラーのご意志に委ねられる。罪は赦されるかもしれないが、シルク(多神)は別であり、アッラーはそれを犯した状態で悔い改めることなく他界した者を永遠に赦しては下さらない。
- シャイターンの目的は、人々をアッラーへの崇拜から逸らせてしまうことだ。その最大の手段の一つが、虚しい期待をまばゆく見せたり、嘘の約束をしたりすることである。



アッラーはシャイターンに従う者たちの応報について言及した後、使徒たちに従った者たちの報いについて、このように言われる。

122 アッラーを信じ、かれへのお近づきとなる正しい行いをする者たちを、われらは天国に入れる。その城郭の下からは河川が流れており、かれらはそこに永遠に留まる。これはアッラーからのお約束。かれが約束を破ることはない。アッラーよりも言葉が正しい者など、存在しない。

123 信者たちよ、救いや勝利といったことは、あなたがたや啓典の民が期待している物事によって得られるのではない。そうではなく、行いによって得られるのだ。あなたがたのうちで悪事を行った者は審判の日にその報いを受けるのであり、アッラー以外に自分を益してくれる守護者も、害悪から阻んでくれる援助者も、見出すことはないのだ。

124 男女の別なく、正しい行いを行う者で、真にアッラーを信仰している者。信仰と行いを両立したそれらの者たちは天国に入るのであり、自分たちの行いに対する報奨を、少しも減らされることはない。たとえそれが、ナツメヤシの種の上に付いている一点ほどの大きさであったとしてもそうである。

125 内実共にアッラーに服従し、かれに対して意図を純粹にし、イスラームの教えで定められたことに従い、ムハンマドの宗教の元であるイブラーヒームの宗教に従い、シルク(多神)と不信仰を放棄してアッラーの唯一性と信仰へと帰依した者。そのような者よりも、宗教において優れた者はいない。アッラーは預言者イブラーヒームをその完全な愛情によって、かれの被造物の中から選り抜いたのだ。

126 天地にある全てのものは、アッラーにのみ属する。アッラーはその知識、お力、采配によって、あらゆる被造物を取り囲んでおられる。

127 使徒よ、かれらは女性と、彼女らの義務と権利について、あなたに尋ねる。言ってやれ。「アッラーは、あなたがたが尋ねていること、クルアーンの中で読誦されることについて、あなたがたに明らかにされる。あなたがたは後見下にある女の孤児に、アッラーが定めた婚資金や遺産を与えず、彼女らの結婚も望まない。あなたがたは彼女らの財産を望み、彼女らのことを結婚から阻んでいる。また、かれはあなたがたに、無力な子供たちに対する義務についても明らかにする。それは遺産相続におけるかれらの権利を満し、かれらの財産を占有したりして不正を行わないことである。また、孤児に対しては公正さをもって対処し、現世と来世においてかれらの諸事が上手く運ぶようにしてやるのが、義務である。あなたがたが孤児やそれ以外の者のためにする善行について、アッラーはご存じであり、それに報いられる。」

#### 本諸節の功徳:

- アッラーの御許にある報奨は、単なる期待や主張によって得られるのではない。信仰と正しい行いが必須なのである。
- 応報は同種のもの。悪いことをすれば悪で報われ、善いことをすればそれよりも善いもので報われる。
- 真摯さと服従の二つが、アッラーの御許で行いが受け入れられる条件である。
- イスラームは女性や年少者などの弱者たちの権利を重んじる。かれらに対する侵害は禁じられ、イスラームの教えに沿った形でかれらの福利に関心を払うことが義務づけられている。

وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ سَنُدْخِلُهُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا وَعْدَ اللَّهِ حَقًّا وَمَنْ أَصْدَقُ مِنَ اللَّهِ قِيلًا ﴿١٢٢﴾ لَيْسَ بِأَمَانِيِّكُمْ وَلَا أَمَانِي أَهْلِ الْكِتَابِ مَنْ يَعْمَلْ سُوءًا يُجْزِبْهُ وَلَا يُجِدْ لَهُ مِنْ دُونِ اللَّهِ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿١٢٣﴾ وَمَنْ يَعْمَلْ مِنَ الصَّالِحَاتِ مِنْ ذَكَرٍ أَوْ أَنْثَى وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَأُولَئِكَ يَدْخُلُونَ الْجَنَّةَ وَلَا يُظْلَمُونَ نَبِيرًا ﴿١٢٤﴾ وَمَنْ أَحْسَنُ دِينًا مِمَّنْ أَسْلَمَ وَجْهَهُ لِلَّهِ وَهُوَ مُحْسِنٌ وَاتَّبَعَ مِلَّةَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا وَاتَّخَذَ اللَّهُ إِبْرَاهِيمَ خَلِيلًا ﴿١٢٥﴾ وَلِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَكَانَ اللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ مُّحِيطًا ﴿١٢٦﴾ وَيَسْتَفْتُونَكَ فِي النِّسَاءِ قُلِ اللَّهُ يُغْفِرُكُمْ فِيهِنَّ وَمَا يُتْلَى عَلَيْكُمْ فِي الْكِتَابِ فِي يَتْلَى النِّسَاءِ الَّتِي لَا تُوْتُونَهُنَّ مَا كُتِبَ لَهُنَّ وَتَرْغَبُونَ أَنْ تَنْكِحُوهُنَّ وَالْمُسْتَضْعَفِينَ مِنَ الْوَالِدِينَ وَأَنْ تَقُومُوا لِلْيَتَامَى بِالْقِسْطِ وَمَا تَفَعَّلُوا مِنْ خَيْرٍ فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ بِهِ عَلِيمًا ﴿١٢٧﴾

وَإِنْ أَمْرًا خَافَتْ مِنْ بَعْلِهَا نُشُوزًا أَوْ إِعْرَاضًا فَلَا جُنَاحَ عَلَيْهِمَا أَنْ يُصْلِحَا بَيْنَهُمَا صُلْحًا وَالصُّلْحُ خَيْرٌ وَأُحْضِرَتِ الْأَنْفُسُ الشُّحَّ وَإِنْ تُحْسِنُوا وَتَتَّقُوا فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿١٢٨﴾ وَلَنْ تَسْتَطِيعُوا أَنْ تَعْدِلُوا بَيْنَ النِّسَاءِ وَلَوْ حَرَصْتُمْ فَلَا تَمِيلُوا كُلَّ الْمِيلِ فَتَذَرُوهَا كَالْمُعَلَّقَةِ وَإِنْ تُصْلِحُوا وَتَتَّقُوا فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَحِيمًا ﴿١٢٩﴾ وَإِنْ يَتَفَرَّقَا يُغْنِ اللَّهُ كُلًّا مِّن سَعْيِهِ وَكَانَ اللَّهُ وَسِعًا كَرِيمًا ﴿١٣٠﴾ وَلِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَلَقَدْ وَصَّيْنَا الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ مِنْ قَبْلِكُمْ وَإِيَّاكُمْ أَنْ اتَّقُوا اللَّهَ وَإِنْ تَكْفُرُوا فَإِنَّ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَكَانَ اللَّهُ غَنِيًّا حَمِيدًا ﴿١٣١﴾ وَلِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَكَفَى بِاللَّهِ وَكِيلًا ﴿١٣٢﴾ إِنْ يَشَأْ يُذْهِبْكُمْ أَيُّهَا النَّاسُ وَيَأْتِ بِآخَرِينَ وَكَانَ اللَّهُ عَلَى ذَلِكَ قَدِيرًا ﴿١٣٣﴾ مَنْ كَانَ يُرِيدُ ثَوَابَ الدُّنْيَا فَعِنْدَ اللَّهِ ثَوَابَ الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ وَكَانَ اللَّهُ سَمِيعًا بَصِيرًا ﴿١٣٤﴾

において称えられるべきお方。

⑬② アッラーのみに、天地にあるものの主権は属する。**かれ**は服従されるにふさわしいお方。被造物に関する全ての物事の采配を委ねられるにあたって、十分なお方である。

⑬③ 人々よ、**かれ**がお望みなら、あなたがたを滅亡させ、**かれ**に従って反逆することのない別の民を出現させよう。アッラーはそれがお出来のお方。

⑬④ 人々よ、自分の行いによって現世の報奨のみを望む者には、アッラーの御許に現世と来世の報奨があることを知らせ、そのいずれをも**かれ**に求めさせよ。アッラーはあなたがたの言葉を聞き、行いをご覧になり、それによって報いられるお方。

#### 本諸節の功德:

- 夫婦間に争いが起きた時、調停することの勧め。また、夫婦関係を持続させるためには権利を一部譲歩してでも、福利を優先させることの勧め。
- 妻たちを公正さでもって対処する義務。特に、夫の能力の範囲内での物質的側面において、それが強調される。また、愛情などの心的側面における公正さの不可能性を考慮した、イスラームの教えの寛容さ。
- 一緒に生活していくことが出来なくなった時、夫婦が離婚しても問題はない。
- アッラーのご命令と禁止事項を守ることによってアッラーを畏れることは、古今を問わず全ての被造物に対する普遍的命令である。

⑬② 妻が、夫の高姿勢や愛情の薄れを恐れるのであれば、扶養や宿泊など自分の権利の一部を譲歩し和解しても、罪はない。和解の方が、離婚よりもかれらにとってよいのだ。人間の魂は強欲さと共に創られており、自分の権利の譲歩を望まないもの。だから夫婦は、寛容さと善行によってこの性格を直す必要がある。あなたがたが全ての物事において善を行い、アッラーのご命令と禁止事項を守ることにおいてアッラーを畏れるのなら、アッラーはあなたがたの行い全てをお見通しであり、それに対して報いるお方。

⑬③ 夫たちよ、いかに努力しようとも、あなたがたは心情的なことに関して、妻を完全に平等に扱うことは出来ない。ある物事においては、あなたがたの意思とは別に働くこともあるからだ。だから愛していない方を、夫がある妻のようでもなく、結婚を望む独身の女性のようにでもないような中途半端な状態にして、放ったらかしにしてはならない。あなたがたが妻の権利を満たし、気乗りのしない責任を果たすことで、互いの関係を正し、そこにおいてアッラーを畏れるのであれば、アッラーはあなたがたに対し救し深く慈悲深くあるだろう。

⑬④ 離婚や、妻の側からの離婚の要請によって夫婦が別れても、アッラーは大きなお恵みによってかれらのいずれをも豊かにして下さる。アッラーは豊かな恩恵とお慈悲をお持ちであり、その采配と定めにおいて英知あふれるお方。

⑬⑤ アッラーにのみ、天地とそこにあるものの主権は属する。われらは確かに、ユダヤ教徒とキリスト教徒、そしてあなたがたに、アッラーのご命令と禁止事項を守るよう命じたのである。あなたがたがこの契約を否定したとしても、自分たち以外を害することなどは無い。アッラーはあなたがたの服従など必要としてはいないが、**かれ**にこそ天地にあるものは属するのだ。**かれ**はいかなる被造物をも必要とはしておらず、そのあらゆる属性と行為に

يَتَّيِبُهَا لِلَّذِينَ ءَامَنُوا كُفُّوا قَوْمِينَ يَاقَسِطِ شُهَدَاءَ اللَّهِ وَلَوْ  
 عَلَىٰ أَنفُسِكُمْ أَوَالِدَيْنِ وَالْأَقْرَبِينَ إِن يَكُنْ غَنِيًّا أَوْ فَقِيرًا  
 فَاللَّهُ أَوْلَىٰ بِهِمَا فَلَا تَتَّبِعُوا الْهَوَىٰ أَن تَعْدُوا وَإِن تَلُونَا  
 أَوْ تُعْرِضُوا فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ﴿١٣٦﴾ يَتَّيِبُهَا  
 لِلَّذِينَ ءَامَنُوا ءَامَنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَالْكِتَابِ الَّذِي نَزَّلَ  
 عَلَىٰ رَسُولِهِ وَالْكِتَابِ الَّذِي أَنْزَلَ مِن قَبْلُ وَمَن يَكْفُرْ  
 بِاللَّهِ وَمَلَائِكَتِهِ وَكُتُبِهِ وَرُسُلِهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ فَقَدْ ضَلَّ  
 ضَلَالًا بَعِيدًا ﴿١٣٧﴾ إِن الَّذِينَ ءَامَنُوا ثُمَّ كَفَرُوا ثُمَّ ءَامَنُوا ثُمَّ  
 كَفَرُوا ثُمَّ أَرَادُوا كُفْرًا لَّمْ يَكُنِ اللَّهُ لِيُعْفِرْ لَهُمْ وَلَا يَهْدِيَهُمْ  
 سَبِيلًا ﴿١٣٨﴾ بَشِّرِ الْمُنَافِقِينَ بِأَنَّ لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٣٩﴾ الَّذِينَ  
 يَتَّخِذُونَ الْكَافِرِينَ أَوْلِيَاءَ مِن دُونِ الْمُؤْمِنِينَ أَيَبْتَغُونَ  
 عِندَهُمُ الْعِزَّةَ فَإِنَّ الْعِزَّةَ لِلَّهِ جَمِيعًا ﴿١٤٠﴾ وَقَدْ نَزَّلَ عَلَيْكَ فِي  
 الْكِتَابِ أَن إِذَا سَأَلْتَهُنَّ آيَاتِ اللَّهِ يُكْفُرُ بِهَا وَيُسْتَهْزَأُ بِهَا فَلَا  
 تَعْدُوا مَعَهُمْ حَتَّىٰ يَخُوضُوا فِي حَدِيثٍ غَيْرِهِ ؕ إِنَّكُمْ إِذَا مَشَأْتُمْ  
 إِنَّ اللَّهَ جَامِعُ الْمُنَافِقِينَ وَالْكَافِرِينَ فِي جَهَنَّمَ جَمِيعًا ﴿١٤١﴾

135 アッラーを信仰し、その使徒に従う者たちよ。あらゆる状況において、公正を行う者となれ。誰に対しても、正しい証言をする者となれ。たとえ、それが自分たちや両親、近親に不利になることを認めることになったとしても。相手の貧富が、証言をするかどうかに影響してはならない。アッラーこそがあなたがたの貧しい者や富んだ者よりも優先されるのであり、それらの者たちの福利を最もご存知なのだ。だからあなたがたの証言において私欲に従い、真理から逸れ去ってはならない。証言を正しい形で行わず改変したり、証言を拒否したりしても、アッラーはあなたがたが行うことに通曉されるお方。

136 信仰する者たちよ、アッラーとその使徒、使徒に下されたクルアーン、かれ以前の使徒たちに下された諸啓典に対する信仰を、確固としたものにせよ。アッラー、その諸天使、その諸啓典、諸使徒、審判の日を否定する者は、まっすぐな道からひどく遠ざけられてしまったのである。

137 信仰に入った後、何度も不信仰に陥る者。つまり信仰に入った後にそれを棄て、それからまた信仰に入り、またそれを棄て、その後不信仰を固守したまま死んだ者の罪を、アッラーはお赦しにはならない。かれはそのような者を、まっすぐな道にお導きにはしないのだ。

138 使徒よ、信仰の仮面をかぶりつつも不信仰を内に秘める偽信者たちに、告げるがよい。かれらには審判の日、アッラーの御許で痛ましい罰があるということ。

139 この罰は、かれらが信者たちをそっちのけにして、不信仰者たちを援助者とし、仲間としたためである。かれらがそのような者たちを仲間としたのは、驚くべきこと。権勢を得るために、かれらから力を求めるというのか？力は全て、アッラーに属しているというのに。

140 信者たちよ、アッラーはクルアーンの中であなたがたに、このように啓示した。あなたがたが集まりの場であり、そこでアッラーの章句を否定し嘲笑する者の話を聞いたら、かれらが別の話題に移るまでは、その場に一緒にいてはならず、そこを立ち去らなければならない。もしその状態の中でかれらと一緒に居続けるのであれば、あなたがたはアッラーの命令に反しているという意味で、かれらと同様になってしまう。なぜなら、かれらが不信仰によってアッラーに反抗したのと同様に、あなたがたはかれらと共にいることでアッラーに反抗したからである。アッラーは審判の日、信仰の仮面をかぶりつつも不信仰を内に秘める偽信者たちを、不信仰者たちと共に地獄の炎の中にお集めになる。

本諸節の功德:

- 人々の間の裁決や証言の遂行における、公正さの義務。たとえそれが自分自身や近親の誰かにとって不利になろうとも、真実を証言しなければならない。
- 信者は、自分の信仰心を高める心身の行いに努力し、それを心に刻む必要がある。
- イスラームとムスリムにとっての、偽信者たちの危険性。アッラーがかれらに、来世における最も厳しい罰で警告しているのは、それが理由である。
- 信者は、アッラーの印とその教えに対して大胆にも不敬を働く者に注意をすることが出来ない場合、そのような者と同席してはいけない。

الَّذِينَ يَتَّبِعُونَ بِكُمْ فَإِنْ كَانَ لَكُمْ فَتْحٌ مِنَ اللَّهِ قَالُوا  
 أَلَمْ تَكُنْ مَعَكُمْ وَإِنْ كَانَ لِلْكَافِرِينَ نَصِيبٌ قَالُوا  
 أَلَمْ نَسْتَحِذْ عَلَيْكُمْ وَنَمْنَعُكُمْ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ فَاللَّهُ يَحْكُمُ  
 بَيْنَكُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ وَلَنْ يَجْعَلَ اللَّهُ لِلْكَافِرِينَ عَلَى الْمُؤْمِنِينَ  
 سَبِيلًا ﴿١٤١﴾ إِنَّ الْمُنْفِقِينَ يُخَادِعُونَ اللَّهَ وَهُوَ خَدِيعُهُمْ وَإِذَا  
 قَامُوا إِلَى الصَّلَاةِ قَامُوا كَسَالَى إِرَاءٍ وَنَ النَّاسِ وَلَا يَذْكُرُونَ  
 اللَّهَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿١٤٢﴾ مُدْبِئِينَ بَيْنَ ذَلِكَ لَا إِلَى هَؤُلَاءِ وَلَا إِلَى  
 هَؤُلَاءِ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَلَنْ تَجِدَ لَهُ سَبِيلًا ﴿١٤٣﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ  
 آمَنُوا لَا تَتَّخِذُوا الْكَافِرِينَ أَوْلِيَاءَ مِنْ دُونِ الْمُؤْمِنِينَ  
 أَتُرِيدُونَ أَنْ تَجْعَلُوا لِلَّهِ عَلَيْكُمْ سُلْطَانًا مُبِينًا ﴿١٤٤﴾ إِنَّ  
 الْمُنْفِقِينَ فِي الدَّرَكِ الْأَسْفَلِ مِنَ النَّارِ وَلَنْ تَجِدَهُمْ صَرِيحًا  
 إِلَّا الَّذِينَ تَابُوا وَأَصْلَحُوا وَاعْتَصَمُوا بِاللَّهِ وَأَخْصُوا  
 دِينَهُمْ لِلَّهِ فَأُولَئِكَ مَعَ الْمُؤْمِنِينَ وَسَوْفَ يُؤْتِي اللَّهُ  
 الْمُؤْمِنِينَ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١٤٥﴾ مَا يَفْعَلُ اللَّهُ بِعَدَائِكُمْ  
 إِنْ شَكَرْتُمْ وَعَآمَنْتُمْ وَكَانَ اللَّهُ شَاكِرًا عَلِيمًا ﴿١٤٦﴾

を改善し、アッラーの契約にしかと掴まり、見栄なしに己の行いを純粋にアッラーに捧げた人を除いては、である。そうした者はこの世でもあの世でも信者と共にあり、アッラーは信者に豊かな報奨を与えてくださる。

もしあなたがたがアッラーに感謝して信じたとしたら、アッラーがかれらに懲罰を与える必要はない。至高なるかれは慈悲深い御方であり、あなたがたを罰するのは自らの罪のせいである。もしあなたがたが行いを正し、かれの御恵みに感謝し、裏表なく信じたなら、かれがあなたがたを罰することはない。アッラーはその御恵みを認める人を評価し、豊かな報奨を与えてくださる。被造物の信仰をよく知り、全ての存在に対しその行いに報いてくださる。

本諸節の功徳:

- 偽信者の特徴を説明。その一つが、信者とでも不信者とも、自分の利益にこだわること。
- 偽信者の最大の特徴は、いつまでも中途半端であること。かれらは本当の意味で信者とも、不信者とも共にいることはない。
- 信者を差し置いて、不信者を仲間とすることへの厳しい禁止。
- あの世でアッラーの懲罰から身を守る最大のものは、信仰と善行である。

あなた方に幸か不幸が起こるのを待っている者は、アッラーのお助けがあってあなた方が戦利品を手に入れたなら、「わたしたちも一緒にいたではないか」と戦利品を得るために言うだろう。一方でもし不信者に運があったなら、「わたしたちこそがあなた方の面倒を見て信者から守り、かれらに屈辱を与えたではないか」と言うだろう。アッラーは双方を復活の日に裁かれ、信者には天国入りで報い、偽信者には地獄の最下層に落とし報われる。復活の日にアッラーは、不信者のために信者に対する証を与えられることなく、信者が信仰に誠実で教えを實踐し続ける限り、最後は信者のためになるようにしてくださる。

偽信者はイスラームを表明し、不信を隠すことでアッラーを欺こうとしているが、かれこそがかれらを欺いておられる。かれらの不信を知りながらその血を守り、あの世において厳しい懲罰を用意されているからである。礼拝に立つときにはしびしび面倒くさそうに他人のことを気にして他人に見られることを意識し、アッラーに誠実であろうとはせず、信者を見かければアッラーのことをほんの少しだけ思い起こす。

偽信者は迷いの最中であって躊躇しており、信者とはその表面で、不信者とはその内面で共にある。使徒よ、アッラーが迷わせる人は導きへの道を見出すことはない。

アッラーを信じ、その使徒に従う者よ、アッラーを拒絶する不信者を、信者を差し置いて信頼する友としてはならない。この行いによって懲罰を与えられて当然となる反証をアッラーに与えたいのか。

偽信者はアッラーが復活の日に地獄の最下層へ落とし、援助者を見つけないことはない。

自らの偽善から悔い改めてアッラーに立ち返り、内面